

第21回東北地区高等学校

総合学科教育研究大会

(宮城県大会) 資料



開催日：令和7年10月9日(木)・10日(金)

会 場：宮城県迫桜高等学校・エポカ21

○栗原市マスコットキャラクターのプロフィール

名 前：ねじり ほんによ（「ほんによ」って呼んでね♪）

職 名：栗原市 PR 担当主事

出 身 地：栗原市田んぼ 1 番地

趣 味：日向ぼっこ

性 格：からだはねじれていても気持ちはストレート！

明るくて祭り好き、でも我慢強いよ

特 技：ひねりじゃんけん（じゃんけんでほんによに勝つといいことあるかも!?)

好きな食べ物：栗原産米で作った「おにぎり」と「おもち」

好きな物：おてんとさま

苦手な物：スズメ

友 達：マイン坊や、光源クリハライザー

（これから、たくさん友達作るんだぁ♪）



大会資料目次

○大会実施要項			1～4		
○校舎案内図・エポカ21館内図			5～6		
○全体会					
発表Ⅰ	「十文字和紙からつなげたい」～地域とつながり伝統和紙を学び 豊かな創造性をひろげ循環する探究活動～	秋田県立増田高等学校	教諭 糯田 亜希子 氏	7～15	
発表Ⅱ	「3部制定時制総合学科」における教育課程	青森県立尾上総合高等学校	教諭 杉沼 裕三 氏	16～24	
○分科会					
[第1分科会]					
テーマ	「教育課程編成及び展開上の諸課題」・「特徴的な取り組みと諸課題」について				
発表1	「生徒の実態に合った総合学科のありかた	紫波総合高等学校の改革」	岩手県立紫波総合高等学校	教諭 近江 隆久 氏	25～33
発表2	「特徴的な取り組みと諸課題」		宮城県石巻北高等学校	教諭 村上 拓也 氏	34～42
[第2分科会]					
テーマ	「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の指導について				
発表1	「地域と協働した魅力ある授業の展開を目指して」		福島県立福島北高等学校	教諭 箭内 奨 氏	43～51
発表2	「村田高校の総合的な探究」		宮城県村田高等学校	教諭 大石 真人 氏	52～59
[第3分科会]					
テーマ	「進路指導」について				
発表1	「山形県立左沢高等学校の現状と課題	ー地域と目指すウェルビーイングー	山形県立左沢高等学校	教諭 中里 岳 氏	60～68
発表2	「宮城県伊具高等学校総合学科における進路指導について	ー地域連携の推進をきっかけとしたウェルビーイングの向上ー	宮城県伊具高等学校	主幹教諭 葛原 妙子 氏	69～77
○記念講演会					
演題	「創意工夫」地域に愛される銘店へ～レストランHACHIの目指してきたコト、目指すコト～				
	講師	株式会社 オールスパイス「レストラン ハチ」	代表取締役会長 角田 秀晴 氏	78～79	
○参加者名簿				80～83	

第21回 東北地区高等学校総合学科教育研究大会(宮城大会)要項

- 1 目的 東北地区の総合学科教育関係者が集い、研究発表・討議をとおして、時代の変化に対応した総合学科教育の推進を図る。
- 2 会期 2025(令和7)年10月9日(木)～10日(金)
- 3 会場 宮城県迫桜高等学校 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 Tel 0228-35-1818
エポカ21(くりはら交流プラザ) 宮城県栗原市志波姫新熊谷279-2 Tel 0228-23-8866
- 4 主催 東北地区総合学科高等学校長協会
- 5 主管 宮城県総合学科高等学校長協会
- 6 後援 全国総合学科高等学校長協会、青森県教育委員会、秋田県教育委員会、岩手県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会、宮城県教育委員会、
(公財)日本教育公務員弘済会宮城支部
- 7 対象 東北地区総合学科高等学校教職員
- 8 参加費 なし(情報交換会は別途徴収 7,000円)

9 日程等

(1) 第1日 10月9日(木)

ア 会場 授業公開・全体会・分科会 宮城県迫桜高等学校
情報交換会 エポカ21 [くりはら交流プラザ]

イ 日程

12:15	12:45	13:00	13:25	14:15	14:25	15:25	15:35	16:50	18:00	20:00
受付	アトラクション	開会行事	授業公開	休憩	全体会	休憩	分科会	移動	情報交換会	

アトラクション 12:45～12:55 【迫桜ホール】

宮城県迫桜高等学校 合唱部・音楽Ⅱ選択者による宮城県迫桜高等学校校歌の披露

開会行事 13:00～13:25 【迫桜ホール】

会長挨拶	東北地区総合学科高等学校長協会	会長 川野 優子 (青森県立青森中央高等学校長)
会場校校長挨拶	宮城県迫桜高等学校	校長 大竹 博行
祝辞	全国総合学科高等学校長協会	理事長 佐藤 信孝 (東京都立晴海総合高等学校長)
進行	宮城県教育委員会(教育長 佐藤 靖彦) 宮城県迫桜高等学校	高校教育課長 菊田 英孝 教頭 千葉 貢

授業公開 13:25～14:15 【アリーナ 他】

1年次「産業社会と人間」キャリアプラン発表会（アリーナ）

2年次「各系列の授業」（教室等）

系列	科目	教室	担当
人文国際	公共	2-2	佐藤章
	英コミⅡ	2-3	小川
自然科学	化学①	2-1	木川
福祉教養	介護福祉基礎(2年) 介護総合演習(3年)	3-4	四釜
アグリビジネス	課題研究①	農場	千葉亮、(菅原)、 小松、佐藤充
エンジニアリング (機械)	自動車実習①	機械工作室	佐藤健、佐々木成
エンジニアリング (土木)	土木実習	水理・測量実験室	佐々木龍、和田、 山口
情報ビジネス	商品開発と流通	情報処理室2	卯野、小野寺健

全体会 14:25～15:25 【迫桜ホール】

発表Ⅰ 「十文字和紙からつなげたい」～地域とつながり伝統和紙を学び

豊かな創造性をひろげ循環する探究活動～

秋田県立増田高等学校

教諭 糯田 亜希子

発表Ⅱ 「3部制定時制総合学科」における教育課程

青森県立尾上総合高等学校

教諭 杉 沼 裕 三

進行 宮城県迫桜高等学校

教頭 千葉 貢

記録 宮城県迫桜高等学校

教諭 佐々木 健 太

分科会 15:35～16:50 【迫桜ホール・会議室・課題研究教室1】

〔第1分科会 【迫桜ホール】〕

テーマ 「教育課程編成及び展開上の諸課題」について、「特徴的な取り組みと諸課題」について

発表1 「生徒の実態に合った総合学科のありかた 紫波総合高等学校の改革」
岩手県立紫波総合高等学校 教 諭 近 江 隆 久

発表2 「特徴的な取り組みと諸課題」
宮城県石巻北高等学校 教 諭 村 上 拓 也

指導・助言 岩手県教育委員会 指導主事 前 川 啓太郎
進行 宮城県石巻北高等学校 教 頭 佐々木 幸太
記録 宮城県石巻北高等学校 教 諭 熱 海 美 穂

〔第2分科会 【会議室】〕

テーマ 「産業社会と人間」の指導について、「総合的な探究の時間」の指導について

発表1 「地域と協働した魅力ある授業の展開を目指して」
福島県立福島北高等学校 教 諭 箭 内 奨

発表2 「村田高校の総合的な探究」
宮城県村田高等学校 教 諭 大 石 真 人

指導・助言 福島県教育委員会 指導主事 鈴 木 博 之
進行 宮城県村田高等学校 教 頭 本 郷 直 哉
記録 宮城県村田高等学校 主幹教諭 青 木 重 幸

〔第3分科会 【課題研究教室1】〕

テーマ 「進路指導」について

発表1 「山形県立左沢高等学校の現状と課題 ―地域と目指すウェルビーイング―」
山形県立左沢高等学校 教 諭 中 里 岳

発表2 「宮城県伊具高等学校総合学科における進路指導について
―地域連携の推進をきっかけとしたウェルビーイングの向上―」
宮城県伊具高等学校 主幹教諭 葛 原 妙 子

指導・助言 山形県教育委員会 指導主事 叶 内 有希絵
進行 宮城県伊具高等学校 教 頭 庄 司 健太郎
記録 宮城県伊具高等学校 教 諭 鈴 木 悦 子

情報交換会 18:00～20:00

会 場 エポカ21 [くりはら交流プラザ] 2階 虹の間

会費 7,000円

(2) 第2日 10月10日(金)

ア 会場 分科会報告・講演会 エポカ21 [くりはら交流プラザ]

イ 日程

9:00 9:30 10:00 10:10 11:10 11:20 11:40

受付	分科会報告	準備	講演会	休憩	閉会行事
----	-------	----	-----	----	------

分科会報告 9:30~10:00 【清流の間】

第1分科会報告 進行担当 宮城県石巻北高等学校 教 頭 佐々木 幸 太
第2分科会報告 進行担当 宮城県村田高等学校 教 頭 本 郷 直 哉
第3分科会報告 進行担当 宮城県伊具高等学校 教 頭 庄 司 健太郎
講評 宮城県教育委員会 指導主事 村 上 泰 己
進行 宮城県迫桜高等学校 教 頭 千 葉 貢
記録 宮城県迫桜高等学校 実習助手 山 口 寛 一

講演会 10:10~11:10 【清流の間】

演題「創意工夫」地域に愛される銘店へ～レストランHACHIの目指してきたコト、目指すコト～
講師 株式会社 オールスパイス「レストラン ハチ」
代表取締役会長 角 田 秀 晴 氏

閉会行事 11:20~11:40 【清流の間】

会長挨拶

東北地区総合学科高等学校長協会会長 (青森県立青森中央高等学校) 川 野 優 子

次期開催県会長挨拶

福島県立いわき総合高等学校 校 長 太 田 隆 明

進行 宮城県迫桜高等学校 教 頭 千 葉 貢

3. 校舎案内図

開会行事・全体会

分科会

公開授業

1年次・・・「産業社会と人間」アリーナ

2年次・・・「各系列の授業」教室等

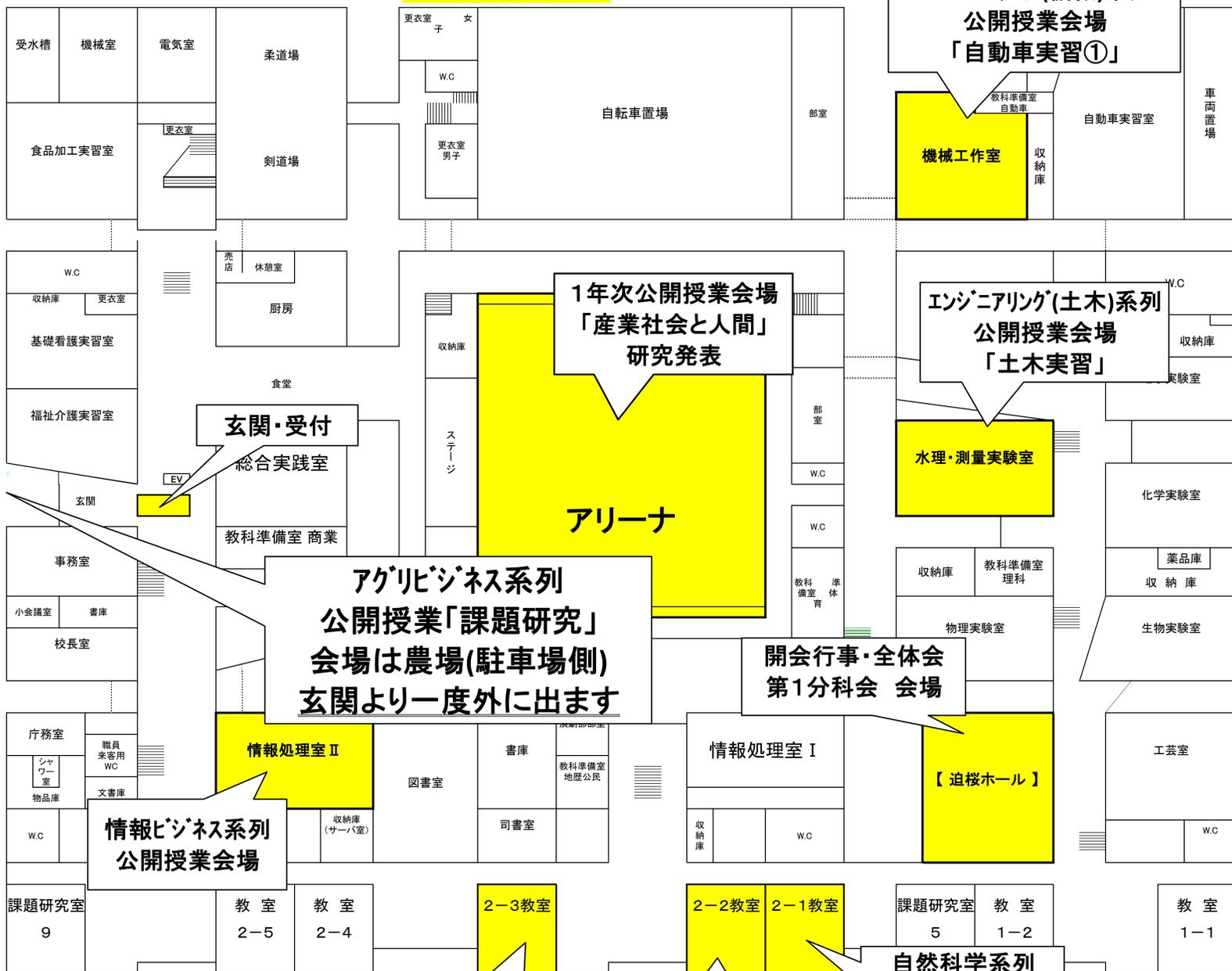
迫桜ホール

第1分科会・・・迫桜ホール

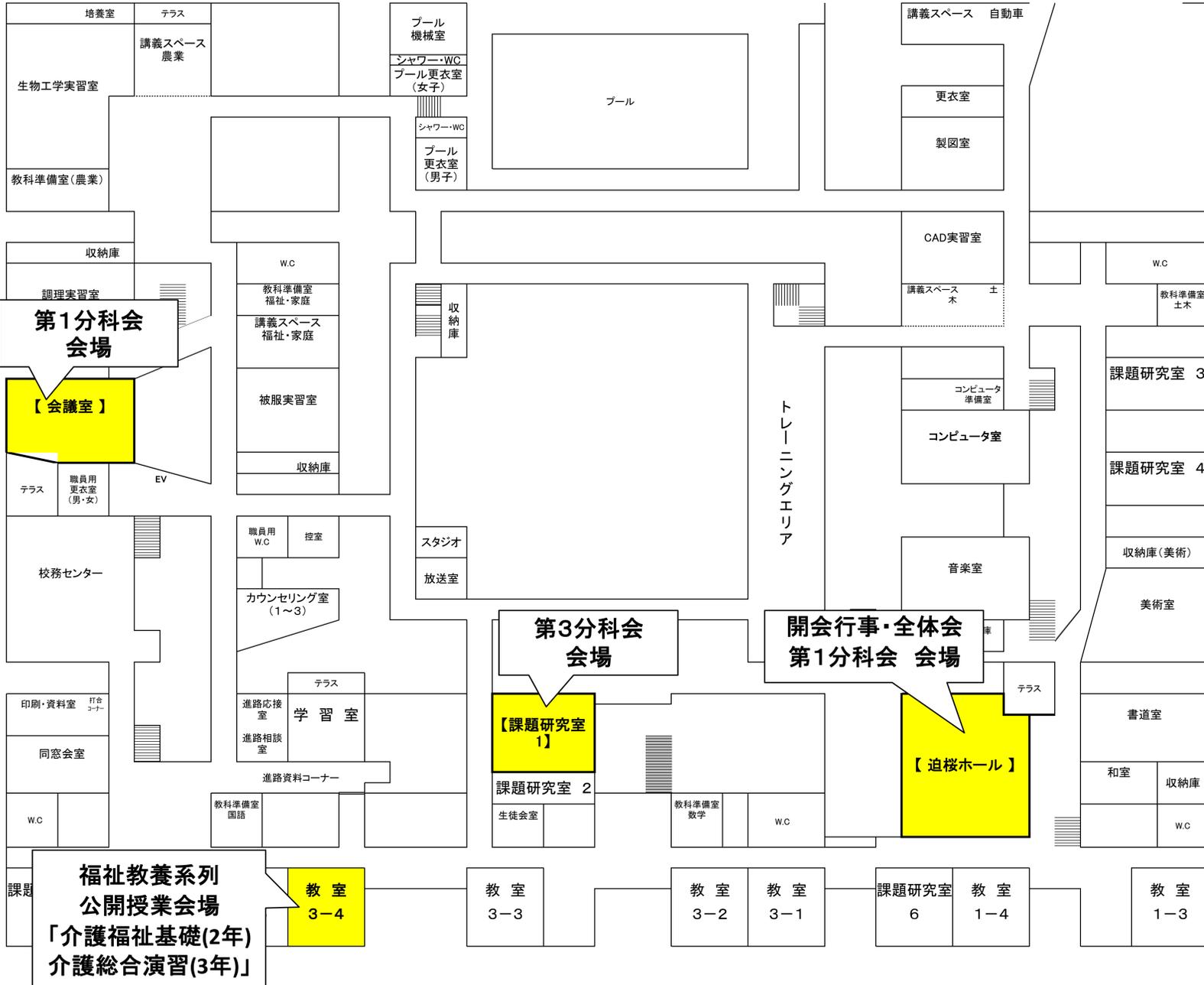
第2分科会・・・会議室

第3分科会・・・課題研究室1

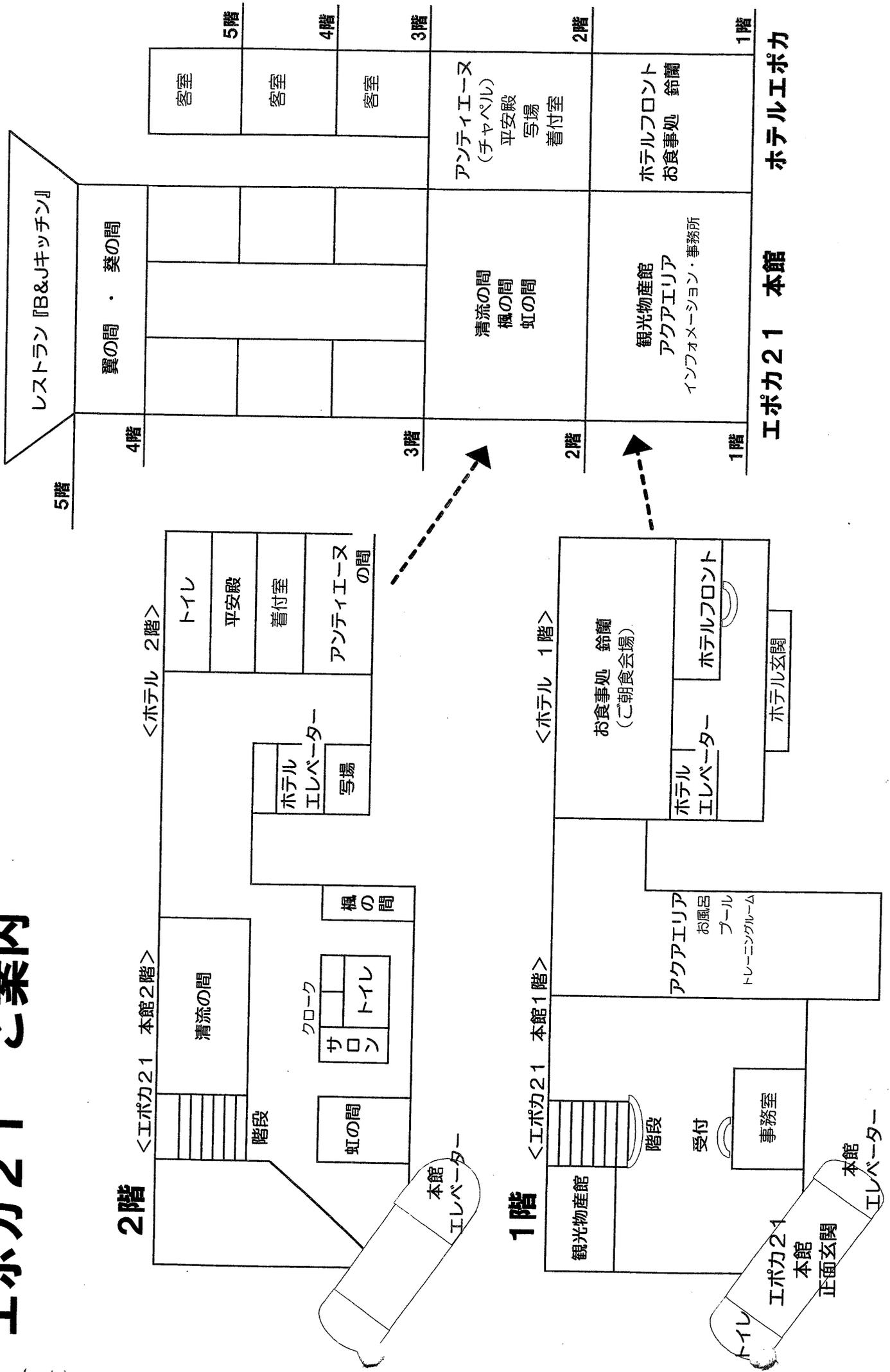
1F



2F



エポカ21 ご案内



エポカ21 本館 ホテルエポカ

全体会 研究発表

発表 1

十文字和紙からつなげたい

～地域とつながり伝統和紙を学び豊かな創造性をひろげ循環する探究活動～



秋田県立増田高等学校

教諭 糯田 亜希子 氏

十文字和紙からつなげたい

～地域とつながり伝統和紙を学び豊かな創造性をひろげ循環する探究活動～

秋田県立増田高等学校
教諭 糯田 亜希子

1 本校の概要

本校は大正14年に増田町立実科高等女学校として創立され、今年度学校創立100周年を迎えた伝統のある学校である。学科改編の経緯については、平成初期まで普通科3学級、農業科、園芸科、生活科学科各1学級を有する高校として、地域の発展に貢献してきており、特に農業関係学科からは多くの農業後継者を送り出してきた。第四次秋田県高等学校総合整備計画を受け、創立70周年を迎えた平成7年4月に秋田県内初の総合学科が設置され、専門学科である農業科学科1学級を併設する学校として5学級7系列でスタートした。その後、総合学科は平成13年には4学級6系列に、平成18年には3学級5系列に再編された。平成29年度より1学年の定員は農業科学科35名、総合学科80名となったが、総合学科は3学級を維持している。進路状況については、学年全体としての割合は、進学と就職がほぼ半々であるが、総合学科においては6割以上が進学者となり、分野も多岐にわたっている。



令和6年度 卒業生の進路状況

		農業科学科	総合学科	合計
進 学	国公立四大		1	1
	私立四大	3	9	12
	国公立短大		1	1
	私立短大		5	5
	看護医療系専門学校		6	6
	その他の専門学校等	7	28	35
	小 計	10	50	60
就 職	公務員		1	1
	民間県内	12	10	22
	民間県外	4	12	16
	自 営			
	小 計	16	23	39
合 計		26	73	99

在籍生徒の系列人数

	第1学年	第2学年	第3学年
人文・社会科学	14	11	12
自然科学	8	6	9
生活デザイン 1年 (生活・福祉)2・3年	9	13	19
芸術・文化	5	9	11
ビジネス会計	16	31	20
合 計	52	70	122

本校の教育は「恩に生き 勤労に立ち 清き感情 強き意志を持って」の校訓のもと、特色ある教育活動及びキャリア教育を展開している。地域連携活動を強化し、体験的な学習や活動の充実を通して、地域社会を担う人材に必要な資質を培っている。

(1) 系列の概要

本校の総合学科では次の5つの系列を設置しており、数多くの総合選択科目の中から自分の進路希望や興味・関心に応じて選択履修し、高度で専門的な知識や技術を身に付けることができる教育課程を展開している。

① 人文・社会科学系列

文科系の科目を重点的に履修し、文学・経済学・教育学（文系）等の分野での進学を目指す。

選択科目：論理国語、日本史探究、世界史探究、英語コミュニケーションⅢ、論理表現Ⅱ など

② 自然科学系列

理数系の科目を重点的に履修し、理学・農学・工学・医療・教育（理系）の分野での進学を目指す。

選択科目：数学Ⅲ、物理、化学、生物、地理探究 など

※「人文・社会科学系列」と「自然科学系列」は、進学に対応する学力を伸ばすことを目指しており、2・3年次では毎週火曜と木曜に7校時を設け、他の系列よりも4単位多く履修している。

③ 芸術・文化系列

芸術（美術と工芸）に関する科目を重点的に履修し、表現力や創造力を伸ばすとともに、芸術系の分野での進学、または一般就職を目指す。進学の割合が高い系列でもある。

選択科目：美術、素描、工芸、陶芸、総合美術 など

④ 生活デザイン系列

食物や被服、保育などの家庭に関する科目や福祉に関する科目を重点的に履修し、専門的な知識や技術を身に付けるとともに、家庭や福祉に関する分野での進学、または一般就職を目指す。講師は、レストランで調理師として活躍している方や、福祉施設で働いている方などをお願いしており、現役の専門家から授業をしてもらうことの多い系列である。検定試験にも多く挑戦しており、上級資格の取得が可能である。

選択科目：フードデザイン、ファッション造形、ファッションデザイン、保育基礎、生活と福祉 など

⑤ ビジネス会計系列

商業に関する科目を重点的に履修し、商業系の資格取得にも積極的に取り組み、経済、経営、情報系の分野への進学、または一般就職を目指す。3年次までに取得できる資格が充実しており、進路への自信につながっている。

選択科目：簿記、財務会計Ⅰ、原価計算、ビジネス基礎、総合実践、マーケティング、ソフトウェア活用 など

総合選択科目

人文・社会科学	論理国語(4) 文学国語(3) 古典探究(4) 世界史探究(4) 日本史探究(4) 政治・経済(2) 数学Ⅱ(4) <u>数学A(2)</u> 数学B(2) 数学C(2) ※数学探究(3) ※化学探究(2) ※生物探究(2) 英語コミュニケーションⅡ(5) 英語コミュニケーションⅢ(4) <u>論理・表現Ⅰ(2)</u> 論理・表現Ⅱ(4)
自然科学	論理国語(4) 古典探究(4) 地理探究(3) 数学Ⅱ(4) 数学Ⅲ(3) <u>数学A(2)</u> 数学B(2) 数学C(2) ※数学探究(2・3) 物理(4) 化学(4) 生物(4) ※化学探究(1) ※生物探究(1) 英語コミュニケーションⅡ(5) 英語コミュニケーションⅢ(4) <u>論理・表現Ⅰ(2)</u> 論理・表現Ⅱ(2・4)
芸術・文化	文学国語(4) ※国語探究(2) 数学Ⅱ(5) <u>数学A(2)</u> 英語コミュニケーションⅡ(4) <u>論理・表現Ⅰ(2)</u> 美術Ⅱ(2) 素描(4) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) ※総合美術A(3) ※総合美術B(3) ※陶芸(4)
生活デザイン	文学国語(4) ※国語探究(2) 数学Ⅱ(5) 英語コミュニケーションⅡ(4) 保育基礎(3) 保育実践(6) ファッション造形基礎(4) ファッション造形(6) フードデザイン(8) 生活と福祉(3) <u>課題研究(2)</u> <u>ファッションデザイン(3)</u> <u>社会福祉基礎(3)</u> <u>介護福祉基礎(4)</u>
ビジネス会計	文学国語(4) ※国語探究(2) 数学Ⅱ(5) 英語コミュニケーションⅡ(4) ビジネス基礎(2) 課題研究(3) 総合実践(4) マーケティング(2) グローバル経済(2) <u>簿記(4)</u> 財務会計Ⅰ(4) 原価計算(3) 情報処理(3) ソフトウェア活用(4) ※会計応用(4) ※パソコン活用(4)

自由選択科目

※教養国語(2) ※教養社会(2) ※教養数学(2) ※教養英語(2) ※生活の書(2)
--

[注]

・総合選択科目群、自由選択科目群で下線を付した科目は、1年次で選択履修することができる。

・※を付した科目は「学校設定科目」である。

履修単位数 (総合的な探究の時間を含む)		91・87 単位
系列別	人文・社会科学	91 単位
	自然科学	
	芸術・文化	87 単位
	生活デザイン	
ビジネス会計		

卒業に必要な 修得単位数	74 単位以上
-----------------	------------

(2) 地域と連携した教育活動

本校の特徴的な取り組みは、探究学習や生活デザイン系列、芸術・文化系列による地域と連携した活動を実施していることである。

生活デザイン系列では探究学習によるこども食堂への取り組みや、農業科学科との連携による地産地消「増田弁当」のメニューの考案の取り組みをしている。

芸術・文化系列では、地元の伝統和紙を活用した地域共創・地域探究をしている。今回は、芸術・文化系列の取り組みについて取り上げたい。



2 十文字和紙について

本校総合学科の芸術・文化系列では令和5年度から十文字和紙（横手市）の

伝統や手漉きの技術を学び、ものづくりで地域の魅力を発信する探究的学習に取り組んでいる。

“十文字和紙”とは江戸時代中期より200年以上の間、秋田県横手市十文字睦合地区で続いている手漉き和紙のことである。他の有名和紙産地と異なり、現在職人が一人となり、職人の作業を十文字和紙愛好会が支えている。和紙職人や愛好会と協働（cross）し、和紙の歴史を学び、製造工程を体験することによって地域が育んできた伝統を学び、十文字和紙の素朴な美しさとあたたかな風合いを生かしたものづくり活動（creative）を通して、持続可能な豊かで未来につながる幸せな地域とのつながりや、拡がりのある循環（loop）する探究活動に挑戦している。



（1）十文字和紙の魅力あるヒストリーと十文字和紙探究のきっかけについて
県教育委員会が編集した「秋田の工芸1」によると、十文字の紙漉きは寛政年間に秋田藩の殖産興業政策の影響を受けたものといわれる。「紙叩く 音の眠らじ 夏木立」天保10年（1839）に建立された手すき和紙の創業者土谷治兵衛を偲ぶ句碑にあるとおり、和紙作りは農閑期の冬場に行うが、初夏に紙を漉くほどの専業にまで発展し、藩の年貢を紙で賄ったという話もある。明治40年に駅が開通し、機械生産された紙が他県より流入され、様々な原因で十文字和紙が衰退する。現在、紙漉き職人は佐々木清男氏一人となり、十文字和紙愛好会メンバー十数名が和紙作りを支えている。なぜ、衰退したにもかかわらず魅力あるヒストリーが存在しているのだろうか。以下2点について理由をあげたい。

1つ目は和紙作りの工程すべてが手作業であること。十文字和紙の素朴な美しさとあたたかな風合いは自然の素材と十数工程の手仕事から生まれ、伝統の技術を守り続けている。（楮刈り・楮ふかし・皮はぎ・皮干し・粗皮とり・煮る・すじあげ・ちりとり・楮たたき・紙漉き・水切り・乾燥・糊づくり）機械生産されなかったことが衰退につながったが、逆に十文字和紙の魅力ある価値をつないでいる。

2つ目は次世代につなぐ職人の思いのこもった中学校の卒業証書の存在があったこと。平成5年より地元中学校の卒業証書を職人が漉いて思い出に残る和紙の証書づくりを続けている。現在では十文字和紙愛好会も証書づくりを手伝っている。本校にも卒業証書を持っている生徒がおり、和紙の存在を知っていた。

以上、2点が十文字和紙探究のきっかけとなる魅力あるヒストリーである。

3 授業での取り組みについて

増田高校は農業科学科と総合学科を有しており、一年生の選択科目である美

術Ⅰと総合学科の芸術・文化系列での工芸Ⅰと総合美術A・B（学校設定科目）で十文字和紙を扱っている。図1はそれぞれの取り組みの様子を表している。



図1

美術Ⅰではランプシェード制作、工芸Ⅰでは十文字和紙探究の和紙作り・伝統技術の学び、総合美術A・Bでは十文字和紙探究のデザイン制作・企画に取り組んでいる。それぞれの科目での詳細について説明していきたい。

(1) 美術Ⅰでの取り組み

農業科学科と総合学科の1年生の美術選択者が十文字和紙を学び和紙のランプシェードを制作している。導入時に伝統工芸について取り上げ「伝統工芸とSDGs」「伝統工芸とイノベーション」について調べて発表している。生徒たちのまとめは以下のとおりである。

「伝統工芸とSDGs」について

- ・伝統工芸品は、伝統的技術や材料を用いて、手作業で一定の地域の職人に製造される品で、大量生産できない選ばれた資源から丁寧に手作業で作られ品質が高く長く使われる品である。伝統工芸品は複数のSDGsの目標（9.11.12.14.15）と結びついている。このことから、SDGsの目標を達成するには伝統工芸の技術伝承などが重要である。

「伝統工芸とイノベーション」について

- ・伝統工芸は当時のイノベティブなものであるが、未来へ繋げていくためには次世代に合わせたイノベーションが必要である。伝統を残し、広め伝えていくためには、今の時代に合わせ、より魅力ある伝統に変化させて世界中に認識してもらうことが重要となってくる。

(2) 工芸Ⅰでの取り組み

本校総合学科の芸術・文化系列は、秋田県内において工芸Ⅰの授業を開設している2校のうちの1校である。2年生で履修する工芸Ⅰでは前半で川連漆器制作、後半で十文字和紙について学んでいる。以下、十文字和紙に関する学びと和紙の工程体験について紹介したい。

① 十文字和紙の歴史について（講話 R5, 6実施）

十文字和紙愛好会で元小学校教員の泉川祐子氏より、十文字和紙の歴史について講話していただいた。

（図2）和紙が十文字地域の産業として発展した後、衰退してしまった経緯や、その後、職人が佐々木清男氏ただ1人となってしまったが、手作業を通して十文字和紙の風合いを守り続けてきたことで、作り手と使い手の間に通じる心温まるものを育んできたこと。地元中学校を卒業する生徒の記念にと卒業証書を渡している話では、地元中学校を卒業した生徒が「私も和紙の証書をもっています！」と発言し、盛り上がった。



図2 講話の様子

② 十文字和紙のワークショップ（以下 WS）について（講話・WS R5, 6 実施）

十文字和紙愛好会で地元団体職員の伊藤綾美氏を講師に招き、和紙を使った WS について実際に「和シェ」和紙の香り袋を作りながら、講話と WS を体験した。和紙の魅力を伝える上で WS を大切にしている理由は、体験型工作 WS を通じて小さな子供から大人まで和紙の魅力を多くの人に直に伝えることができるからである。生徒たち自身が和紙に直に触れて和紙が軽くて破れにくいことを実感し、水切りすることで和紙特有の風合いある加工ができるなど体験することができた。

③ 十文字和紙のブランディングについて（講話 R5, 6 実施）

十文字和紙愛好会でデザイナーの柿崎美和子氏を招き、和紙のブランディング（ブランディングとは、モノやコトの価値を人の頭の中に記憶として残すことである）について自身の取り組みを振り返りながら講話していただいた。講話後におこなったデザイン思考による和紙の活用についてのアイデア出しでは、紙を食べるというアイデアが出るなどユニークな発想がみられた。

④ 木と紙について（講話・WS R6 実施）

秋田県立大学木材高度加工研究所の足立幸司教授と能代木材産業連合会「木の学校」佐々木松夫氏を迎えて、「木と紙」についての講話と組子細工のワークショップ体験をおこなった。

紙の発明や世界的な広がり、洋紙と和紙の違いについて学ぶことができた。伝統工芸品としての和紙の用途や日本の文化的背景としての木と紙の相性の良さについて知見を広げることができた。生徒の感想では、和紙と洋紙の違いから和紙の生活用品としての使われ方の幅広さについて視野が広がり、組子細工の体験を通して改めて、木と紙の相性の良さを認識する様子が伺われた。

⑤ 十文字和紙工程体験（工程体験活動 R5, 6 実施）（図3）

12月～2月の時期に十文字西地区交流館にて十文字和紙工程体験を実施（R5は3回、R6は5回実施）。和紙職人の佐々木清男氏や十文字和紙愛好会の方々に教わり、実際に作業（粗皮とり、ノリウツギ削り、紙漉き）を共にすることで、一つ一つの工程を丁寧におこなってこそ純白の和紙になっていくことを体験し、和紙に対する思いを共感することができた。



図3 紙漉き体験

（3）総合美術A・Bでの取り組み

本校総合学科芸術・文化系列における、学校設定科目総合美術A・Bで十文字和紙探究を実施した時の取り組みについて紹介したい。

①探究型学習の考え方について

探究型学習について美術の授業における探究は造形的探究と考える。造形的探究についてデザイン思考だけでは場合によっては収束しすぎてしまうことがあるので、アート思考的要素を入れつつ活用し、創造的な学びを実現するためにグループで協働、課題の本質を見出し、創造的な解決案や新たな価値の創出を探る思考法を用いた活動をめざした。「Will」自分が取り組みたいこと、

「Can」私にできること、「Need」時代や社会が求めていることの視点や、自分事視点、当事者視点をもって取り組むよう話している。図4においてはデザイン思考やアート思考、そして Will-can-need の考え方のイメージを著者独自でまとめたものである。検証のために生徒の感想や振り返りだけで判断することなく、イベント



図4 デザイン思考、アート型思考、Will-can-need 複合型 著者独自の考え方によるイメージ

展示や企画の際には、客観的な検証のためのアンケート調査を必ず実施するようにしている。

②十文字和紙ランプシェード制作

十文字和紙探究について何を制作するかブレインストーミング（図5）した結果ランプシェード（図6）に決定。プロトタイプ制作として、その後、検証し販売用ミニ型ランプシェードを制作する。



図5ブレインストーミングの結果

③探究の成果のまとめ発表とイベント展示や WS 企画について

1. 横手市増田まんが美術館への展示(R6.4月)

十文字和紙探究の成果とランプシェードの展示、アンケート集計、地元テレビ局へのPR動画制作実施

2. 「蔵の日」増田地域じまん市への出店(R6.10月)(図7)



図6 ランプシェード

横手市のイベントに参加、和紙で作るマグネットのWS企画、ミニ型ランプシェード制作販売、アンケート実施

3. 旧片野家住宅秋の一般公開への展示参加(R6.10月)

横手市「旧片野家住宅」が令和6年国の登録有形文化財に登録され一般公開

ランプシェード（図6）とミニ型ランプシェードの展示、アンケート集計実施（※179人分のアンケート結果より十文字和紙のイメージを客観的にテキストで生成）（図8）

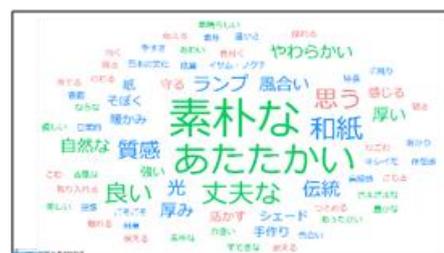


図8 UserLocal テキストマイニングより

※ミニ型ランプシェードが市職員の目に留まり、片野家住宅の公開時に使用する間接照明として購入が決定

4. 「あきたまちのえき」イベント展示 (R8.1月)

東京藝術大学と秋田ステーションビル（株）が主催するアートを通じた地方創生企画へ十文字和紙愛好会と共に展示。ランプシェードの展示（図6）、ア

ンケートの実施

5. 「旧片野家あかりアート展」イベント共催(R7.2月)(図9)

横手の小正月行事かまくらの期間に旧片野家の内蔵で企画された「あかりアート展」にイベント用ランプシェードを制作しイベント補助参加した。主催は横手市、共催は株式会社東海理化と十文字和紙愛好会、増田高校。旧片野家を活用した冬の新しい観光の提案。



図7 「蔵の日」増田地域じまん市への出店WSの様子



図9 「旧片野家あかりアート展」内蔵でのアートイベントの様子

4 これからの十文字和紙探究について

講師を招いて学び、体験し、自分たちで作品をつくりワークショップを企画実践する。地域をフィールドにする学びが実現するには、職人や愛好会ははじめ行政や企業、そして地域の協力が欠かせない。協力企業である横手市に工場がある東海理化は地域共創を理念としており、今後とも協力関係を繋いでいく予定である。持続可能な豊かで未来につながる幸せな地域とのつながりや拡がりのある循環を、アートやデザインで共創しつながっている。また、イベントに参加し楽しみながら作品を購入しアンケート集計に協力していただいた方々や、活動するにあたり様々な形で協力していただいた方々、団体に感謝したい。

最後に生徒感想について取り上げたい。「私達は人通りが少ないところで販売を行いました、想像以上に買ってくださる人がいてとても驚きましたし、嬉しかったです。」「アンケートを見て、多くの方々の感想や意見が沢山書かれていて嬉しかったです。十文字和紙を知っていたという方が結構いて十文字和紙はすごいなと思いました。多くの方が感想を書いてくださった中で、日常でどのように使うかなど参考になることが書かれていました。その他に、自分では気づかなかった和紙の魅力について書かれており、そのような見方などもあるのだなと思いました。」「ランプシェードは大人の方に人気があり、和グネット制作のWSは子供が一目見て可愛いからほしいという感じで参加する人が多かったです。『〇〇ちゃんにもあげたい』ともう1セット作りたがる子もいて嬉しかったです。」

十文字和紙探究の取り組みが地域や社会とつながりを生み(cross)、生徒達自身の自己有用感となり、十文字和紙に関わる全体のウェルビーイングにつながる。今後、探究を続け、美術・工芸教育(creative)でさらなる幸せで豊かな循環(loop)をつないでいきたい

註1 『秋田の工芸』(秋田県教育委員会、平成19年)、p.196

全体会 研究発表

発表2

「3部制定時制総合学科」における教育課程



青森県立尾上総合高等学校

教諭 杉沼 裕三 氏

全体発表

「3部制定時制総合学科」における教育課程

青森県立尾上総合高等学校
教諭 杉沼裕三

1. 本校の概要

(1) 沿革

本校は平成11年4月に開校し、全日制（総合学科）、昼間定時制（普通科）、通信制（普通科：青森県立北斗高校尾上分室）が設置された。生徒数減少等に伴い、平成23年4月に全日制的課程のみ募集停止となり、平成25年4月に全日制閉課程、昼間定時制（普通科）からⅢ部制定時制（総合学科）に移行、同時に通信制（普通科）が併設された。

(2) 本校の現状

本校は青森県内において定通併置高の中で唯一定時制が総合学科の高校であり、地域の定通教育の中核的役割を担っている。学校周辺は田んぼ等が多く、自然豊かでのどかな環境である。生徒の進路に関しては、進学と就職がほぼ半々であり、進学は専門学校が多い。過去に不登校や別室登校を経験している生徒が多く、対人関係や家庭環境の悩み、社会不安障害や発達障害、学習障害等を抱える生徒も多数在籍している。

総合学科の高校として「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「課題研究」、設定科目「総合スキル」、「総合自己理解」及び学校生活を通じて、生徒の社会的・職業的自立に向けて生徒一人一人のキャリア発達を支援し、計画的・継続的な支援体制を確立するよう取り組んでいる。また、キャリア教育とともにインクルーシブ教育も実践しており、通級指導や日本語指導、遠隔授業等の実施、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールライフサポーターと連携し、生徒のサポートに努めている。令和4年度入学生から制服を廃止し、私服登校である。

令和7年度8月現在、生徒数は下表の通り

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
I部	34	36	25	21	116
II部	24	20	20	21	85
III部	2	2	4	6	14
計	60	58	49	48	215

2. 3部制について

生徒が自身の実状に合わせて、自分で登校時間を選べる。

※校時表は右表

I部 9:00～ ①～④校時
 II部 10:50～ ③～⑥校時
 III部 17:15～ ⑦～⑩校時

原則、1日4時間・4年間をかけて卒業。

一般に、3部制の高校では①～⑫校時の実施で、①～④校時を午前部、⑤～⑧校時を午後部、⑨～⑫校時を夜間部とする形態が多いが、本校はI・II部で3校時と4校時が重なっていることが特長である。6校時と7校時の間にフリータイムを設けることで、部活動や生徒会活動の時間に充てている。

校時	時間帯
1校時	9:00～ 9:45
2校時	9:55～ 10:40
3校時	10:50～ 11:35
4校時	11:45～ 12:30
S H R ・ 清掃	12:30～ 12:40
昼休み	12:40～ 13:25
5校時	13:25～ 14:10
6校時	14:20～ 15:05
清掃	15:05～ 15:15
フリータイム	15:15～ 17:10
S H R	17:10～ 17:15
7校時	17:15～ 18:00
8校時	18:05～ 18:50
9校時	18:55～ 19:40
10校時	19:45～ 20:30
清掃	20:30～ 20:35

3. 定時制について

原則4年をかけて卒業、3年で卒業することも可能。

自部の授業だけを履修し4年で卒業することを「4修」、自部と他部の授業を履修し3年で卒業することを「3修」という。III部に関しては、他部履修も可能であるが、現実的には難しいため、「定通併修」を取り入れている。

「定通併修」とは、通信制の課程の科目を履修して修得した単位を卒業単位に含める制度であり、添削指導（レポート）・面接指導（授業）・試験を行い、すべてクリアすると単位が修得できる。

（時間割例：I・II・III部）

I部 Aさんの例						II部 Bさんの例						III部 Cさんの例							
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		
1校時	ビジコミュ	郷土学	情報処理	ビジコミュ	ビジコミュ	1校時	他部履修 3年卒業コースの場合、					昼休み							
2校時	社会探究	ビジコミュ	郷土学	社会探究	情報処理	2校時	2, 3年次は1, 2校時授業あり					5校時							
3校時	簿記	マーケ	ビジ法規	簿記	簿記	3校時	土木施工	土木施工	測量	実習	測量	6校時							
4校時	ビジ法規	簿記	HR活動	マーケ	キャリア	4校時	情報数理	情報数理	HR活動	実習	キャリア	SHR							
S H R	SHR					S H R	SHR					7校時	体育	総スキル	定通併修	現国	キャリア		
昼休み						昼休み						8校時	総スキル	体育	数I	数I	保健		
5校時	他部履修 3年卒業コースの場合、					5校時	物理基礎	製図	課題研究	製図	情報シス	9校時	英コI	英コI	英コI	科人	科人		
6校時	2, 3年次は5, 6校時授業あり					6校時	物理基礎	コン技術	課題研究	情報シス	コン技術	10校時	数I	公共	HR活動	公共	現国		

4. 総合学科について

(1) 科目選択

I・II部に所属する生徒は、普通、商業、工業の3つの系列の中から、III部に所属する生徒は、普通、商業の2つの系列の中から科目を選択することができる。その他、総合・家庭・芸術の分野からも科目選択が可能。科目選択は3年次からであるが、3修生は2年次から選択可能。

本校の特色として、系列選択ではなく科目選択となっており、選択科目をS1～S7にグループ分けし、各グループから系列に関係なく1科目ずつ選択（2科目の場合もあり）する。そのため、1年次をのぞく各年次が混在した授業となる。

普通	国語表現、国語応用、社会探究、数学Ⅱ、数学A、数学B、 化学基礎、物理基礎、地学基礎、 英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ
商業	ビジネス基礎、ビジネス・コミュニケーション、 マーケティング、商品開発と流通、 ビジネス法規、簿記、情報処理
工業	工業技術基礎、実習、製図、工業情報数理、 工業環境技術、生産技術、コンピュータシステム技術、 測量、土木構造設計、土木施工、社会基盤工学、 情報システムのプログラミング、コンテンツの制作と発信
総合	郷土学
家庭	保育基礎、服飾手芸、フードデザイン
芸術	音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ



グループ分け

	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7
普通系列	社会探究	化学基礎	地学基礎	英語コミュニケーションⅡ		国語表現Ⅱ☆★	国語応用★
	物理基礎	国語表現Ⅰ☆	数学A	数学Ⅱ★		論理・表現Ⅰ★	数学B★
商業系列	商品開発と流通	ビジネス基礎	情報処理	簿記 ビジネスコミュニケーション★		マーケティング★	ビジネス法規
	工業系列	実習Ⅰ☆	測量Ⅰ☆	工業技術基礎	生産技術	工業情報数理	社会基盤工学★
土木施工Ⅰ☆			土木構造設計Ⅰ☆		土木構造設計Ⅱ☆★	実習Ⅱ☆★	
製図			土木施工Ⅱ☆★		コンピューターシステム技術	コンテンツの制作と発信★	
情報システムのプログラミング							
自由選択	フードデザイン★	郷土学	服飾手芸★			音楽Ⅱ・美術Ⅱ 書道Ⅱ★	保育基礎★

(2) キャリア教育関連科目

キャリア教育をねらいとする総合科目として、1年次に「キャリアデザイン基礎」、「総合スキルⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅠ」、「総合スキルⅡ」、3年次に「キャリアデザインⅡ」、4年次に「キャリアデザインまとめ」、「総合自己理解」を実施している。

キャリア教育をねらいとする総合科目				
年次	科目と内容 ①		科目と内容 ②	
1年次	キャリアデザイン基礎 ※産業社会と人間	職業人インタビュー 企業・学校説明会 ライフプラン1(自分の生き方) 科目選択 等	総合スキルⅠ ※学校設定科目	文章表現力 ワープロ活用力 プレゼンテーションスキル 尾総チャレンジ(学び直し)
2年次	キャリアデザインⅠ ※総合的な探究の時間	農作業体験 企業・学校説明会 ライフプラン2(自分の生き方) 科目選択 等	総合スキルⅡ ※学校設定科目	表計算活用力 データ活用力 問題解決力(課題研究の基礎) 尾総チャレンジ(学び直し)
3年次	キャリアデザインⅡ ※総合的な探究の時間	インターンシップ 企業・学校説明会 地域の課題発見解決について 科目選択 等		
4年次	キャリアデザインまとめ ※課題研究	課題の設定 情報収集(フィールドワーク等) 論文作成プレゼンテーション	総合自己理解 ※学校設定科目	地域の課題発見解決について コミュニケーションスキルと自己表現等

各年次において、「キャリアデザイン科目」として探究・体験活動を取り入れ、事前指導・事後指導にも十分な時間を割いている。設定科目「総合スキル」は、活動を行うために必要な知識や技能を身に付けるための授業である。入学から卒業までの体系的な取り組みを重視しており、実現できるよう各年次のキャリア担当と定期的に打ち合わせを行い、活動の目的の明確化、情報の共有を行っている。

また、本校の性質上、科目選択に困惑する生徒も多い。そのため、将来的なミスマッチを可能な限り防げるよう、科目選択のための相談会・研究会・授業体験を時間をかけて行っている。

(科目選択相談会)



(科目選択授業体験)



5. 学校の現状について

(1) 通級指導

本校では科目名「自立スキル」として令和元年度から通級指導が行われ、令和2年度から正式に教育課程に編成された。通級指導とは、障害による学習上・生活上の困難を主体的に改善・克服するために受ける特別の指導（「自立活動」の指導）のことであり、対象となる生徒・指導内容に関しても細かく提示されている。（別紙資料）

今年度の実施状況は生徒16名を対象に週合計20コマ行われ、本校教員（特別支援教育に関する専門性や経験を有する教員中心）が担当している。1・2年次は他部の時間に加える、3年次以上は選択科目に替えて行っており、個別指導中心の形態である。

（様々な通級指導の取り組み）



（校内居場所カフェ）



(2) 日本語指導

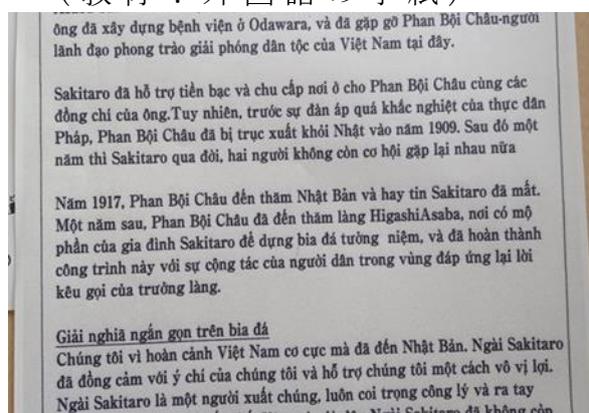
本校では設定科目「日本語入門」、「日本語基礎」、「日本語応用」として令和6年度から教育課程に編成された。日本語指導とは、日本語を母語としない生徒や、日本語での学習に困難を抱える生徒に対し、学校生活や学習に必要な日本語能力を習得させるための教育活動である。

今年度の実施状況は生徒2名を対象に週合計6コマ行われ、本校教員（とくに条件等はなし）と支援員の2人体制で担当している。通級指導と同様1・2年次は他部の時間に加える、3年次以上は選択科目に替えて行っており、個別指導中心の形態である。

(指導の様子)



(教材：外国語の手紙)



6. 結びに

「3部制」「定時制」「総合学科」「学校の現状」を踏まえた教育課程を発表したが、多様な生徒の多様な進路に対応するため様々な取り組みを日々改善しながら行っている。今後も生徒の自己実現のため、地域で必要とされる学校であるため、本校の強みを生かした教育課程をもとに取り組んでいきたい。

(別紙資料 1)

(参考 3) 「通級による指導」の対象となる障害の種類及び程度

(平成 25 年 10 月 4 日付 初等中等教育局長通知)

言語障害者	口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の違いがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものでない者に限る。）で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のも
自閉症者	自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のも
情緒障害者	主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、通常の学級で学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のも
弱視者	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの
難聴者	補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの
学習障害者	全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもので、一部特別な指導を必要とする程度のも
注意欠陥多動性障害者	年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性が認められ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもので、一部特別な指導を必要とする程度のも
肢体不自由者	肢体不自由の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のも
病弱者・身体虚弱者	病弱又は身体虚弱の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のも

(別紙資料 2)

(参考 4) 特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容

1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4)健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	(1)情緒の安定に関する事。 (2)状況の理解と変化への対応に関する事。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2)他者の意図や感情の理解に関する事。 (3)自己の理解と行動の調整に関する事。 (4)集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関する事。 (2)感覚や認知の特性への対応に関する事。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事。 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4)身体の移動能力に関する事。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2)言語の受容と表出に関する事。 (3)言語の形成と活用に関する事。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事。

(文部科学省「高等学校における通級による指導」資料より)

令和7年度教育課程表

(I ・ II 部 教育課程)

	教科・系列	科目名	I 部 ・ II 部			
			1 年次	2 年次	3 年次	4 年次～
必履修科目	国語	現代の国語	2			
		言語文化		2		
	地歴	地理総合			2	
		歴史総合		2		
	公民	公民共	2			
	数学	数学 I	4			
	理科	科学と人間生活	2			
		生物基礎		2		
	保健体育	体育	2	3	2	
		保健	1	1		
	芸術	音楽 I		● 2	} 1科目 を選択	
		美術 I		● 2		
書道 I			● 2			
外国語	英語コミュニケーション I	3				
家庭情報	家庭基礎		2			
	情報 I		2			
原則履修科目	産業社会と人間	2				
全員履修科目	課題研究			■ 2	□ 2	
全員設定科目	総合	[設] 総合スキル I	2			
		[設] 総合スキル II		2		
4年次設定科目	総合	[設] 総合自己理解※1			1	
小 計			20	18	4～6	3
総合選択科目	普通系列		国語表現(2) [設]社会探究(2) 数学A(2) 化学基礎(2) 物理基礎(2) 地学基礎(2) 英語コミュニケーションII(4)			
			【3年次以降履修する科目】 国語表現(2) [設]国語応用(2) 数学II(4) 数学B(2) 論理・表現I(2)			
	商業系列		ビジネス基礎(2) 商品開発と流通(2) 簿記(4) 情報処理(2)			
			【3年次以降履修する科目】 ビジネス・コミュニケーション(4) マーケティング(2) ビジネス法規(2)			
	工業系列		工業技術基礎(2) 実習(4) 製図(2) 工業情報数理(2) 生産技術(2) コンピュータシステム技術(2) 測量(4) 土木構造設計(4) 土木施工(4) 情報システムのプログラミング(2)			
			【3年次以降履修する科目】 工業環境技術(2) 社会基盤工学(2) コンテンツの制作と発信(2)			
	総合		[設] 郷土学(2)			
	家庭		保育基礎(2) 服飾手芸(2) フードデザイン(2)			
芸術		音楽II(2) 美術II(2) 書道II(2)				
日本語 ※2		[設] 日本語入門(2) [設] 日本語基礎(2) [設] 日本語活用I(2) [設] 日本語活用II(2)				
小 計			0～4	0～10	10～14	16～
総合的な探究の時間(キャリアデザイン)			0	2	2	0
自立活動 ※2			1～2	1～2	1～2	1～2
合 計			20～26	20～30	20～30	19～
ホームルーム活動(時間)			35	35	35	35
備考	各科目の()内は単位数を表す ●は選択科目 ■は3修制希望者のみ履修する □は4修制希望者のみ履修する		[設]は学校設定科目 総合選択科目は2年次以降に履修する 国語表現、測量、実習、土木構造設計、土木施工は分割履修 ※1は4年次以降、産業社会と人間、総合的な探究の時間を履修済の場合、選択する ※2は履修を認められた場合のみ履修可能			

第1分科会 「教育課程編成及び展開上の諸課題」について
「特徴的な取り組みと諸課題」について

発表1

『生徒の実態に合った総合学科のありかた』

紫波総合高等学校の改革



岩手県立紫波総合高等学校
教諭 近江 隆久 氏

(第1分科会発表)

『生徒の実態に合った総合学科のありかた』

紫波総合高等学校の改革

岩手県立紫波総合高等学校
教諭 近江 隆久

1 はじめに (紫波総合高等学校の沿革と学科改編時概況)

- 昭和5年(1930年)日詰実業補習学校を日詰町立実業専修学校と改称する。

(中略)

- 昭和30年(1955年)岩手県立紫波高等学校と改称

※ 通称「しわこう」と呼ばれるようになる

普通科・農業科(～平成17年)

家政科(昭和27年～昭和63年)

情報デザイン科(昭和62年～平成17年)

園芸科(昭和44年～昭和50年)

- 平成16年(2004年)岩手県立紫波総合高等学校と改称
総合学科6学級設置(定員240名)

当時の系列は

- ① 人文科学 ② マルチメディア ③ 自然科学
- ④ エコロジー・フード ⑤ スポーツ・健康
- ⑥ ライフデザイン ⑦ ビジネス経済 の7系列。

学校は盛岡市の南郊外の田園地域に位置し、周辺はオガールという複合施設を中心に、新たな住宅地に変容してきている。駅が近い(JR東北本線紫波中央駅徒歩10分)こともあり、生徒の出身中学校は、地元紫波町を中心に、近隣の矢巾町、盛岡市が半数以上を占め、また、東北本線沿いの花巻市、滝沢市からも集まる。



2 本校総合学科の現況

(1) 生徒数の推移

総合学科に改編して以後、緩やかに生徒数が減少していたが、近年の急速な少子化や高校授業料無償化等の影響を受けてさらに生徒数が激減。

〈定員数の変化〉

- 平成16(2002)年 6学級(定員240名)
- 平成19(2005)年 5学級(定員200名)
- 令和2(2020)年 4学級(定員160名)
- 令和5(2023)年 3学級(定員120名)



〈近年の卒業生数〉

令和4年度卒業生 79名 令和5年度卒業生 65名

令和6年度卒業生 61名

(令和3年度までは100名以上の卒業生を送り出していた)

〈令和7年現在(2025年)の在籍〉(R07.05.01現在)

1年次85名 2年次86名 3年次80名 計251名

(2) 現在の系列

令和7年度は、人文・自然系列を選択する2・3年次の生徒はおらず、事実上、以下の4系列のみとなっています。

また、令和7年度入学生から人文・自然系列を廃止しました(普通科目を中心に学習し、大学・短大・高等看護学校や公務員の合格を目指す進学者向けの系列です)。



① エコロジー・フード系列

「食」「農」に興味を持ち、農業生産の仕組みや方法を理解できる人間の育成を目指している。



② 情報・経済系列

商業や経済・情報等の科目を中心に学習している。

③ ライフデザイン系列

家庭科に関する知識と技術を、実験や実習を通して身につけることを目指している。



④ 福祉・健康系列

福祉の心と実践力を持った人材の育成を目指している。介護職員初任者研修課程を実施している。

(3) 人文・自然系列の廃止の経緯

〈人文・自然系列の所属生徒の人数の変遷〉単位：人

	R03	R04	R05	R06	R07
3年	30	14	7	0	0
2年	15	8	0	0	0

※ 令和5年度の3年次を最後に人文・自然系列の生徒は不在

全体の入学生が減少したことに伴い、令和2年度入学生から、人文・自然系列への希望者も激減しました。人文と自然を分けての授業など

は、それぞれ選択者が1桁の状態でした。平成10年に請願駅として紫波中央駅（平成30年から窓口設置、有人化）が設置され交通の便が良くなりましたが、それは同時に地元の進学意欲の高い中学生の流失につながり、逆に近隣の盛岡市・花巻市等からは、市内の高校へ入学することができないなど学力・意識の低い生徒の流入という現象が背景にありました。そして、近隣の学校には進学に力を入れる普通高校はたくさんあり、「しわこうからも、国公立大…」という地域の声も少なくなり、人文・自然系列へのニーズは少なくなっていました。

〈全校生徒における紫波町内出身生徒の割合〉単位：％

	H08	H12	H17	H22	H27	R02	R07
紫波町内 生徒割合	43.0	41.0	37.6	34.7	35.0	37.6	36.3

教員の定数減もあり、系列再編の必要性が高まり、早急な見直しが必要と迫られました。今まで通りの5系列を維持しては学校の特色を出せない上に、職員の負担が増すばかりでありました。合わせて、この頃から県全体で始まった「魅力ある高校づくり、学校の特色化…」の流れも人文・自然系列の廃止の後押しになりました。

3 荒れた学校（生徒の実態）

(1) 『総合学科』って何？

平成も終わりを迎えようかという平成30年4月に本校に赴任しました。総合学科高校に勤務するのは初めてでしたが、似たような高校に勤務したことはあったので、なんとなくイメージはしていましたが、実際はそれをはるかに超えるシステムでした。“系列＝クラス”というイメージでいたのですが、どこのクラスにもいろいろな系列の生徒が混ざっていました。系列ごとのクラスにすると問題があるようでした。また、単位制なので学年ではなく、年次と呼ぶそうです。3年間で卒業できなければ「4年次」として在籍し、卒業を目指すということも説明されました。

しかし、実際には学年単位で活動し、他の学年制の学校と大きな差はありませんでした。4年次もほとんど在籍したことはなく、そのような生徒は転校するということでした。驚いたのは、進路変更する生徒の多さです。年度末で単位習得ができず、最終的に3年間で卒業できない生徒が、退学・転学しているケースが多々ありました。実際調べてみると、2年次・3年次に、未修得科目がありながら、在籍している生徒が結構な人数いました。「本校では追認考査がない」ということでした。よって、年度末で欠点を取得しても、そのまま次の年次に進みます。それらの生徒も多くは「3年間で卒業できない」ことがはっきりした時点で転学するという状況でした（単位未修得の生徒には出席時数不足で履修認定にならない生徒も結構いました）。ときには、このことで家庭とトラブルになることもあり、担任の先生にとっ

ては相当な苦勞でした。

(2) 興味関心に応じた教育課程と進路実現への難しさ

多彩な選択科目を用意していましたが、進学に必要な科目を履修しながら、基礎的な科目は履修していない状況もありました。興味関心に基づき自由に選択科目を履修させることと進路選択に乖離した状態がみられました。

多彩な科目選択は教員の担当科目を増やし、担当時間を多くしていました。

	1年次	2年次	3年次
数学Ⅰ	3単位×1クラス		
数学Ⅱ		4単位×1クラス 3単位×2クラス	
数学A		2単位×1クラス	2単位×1クラス
数学基礎		2単位×1クラス	

(3) 総合学科の理想と現実（生徒指導困難校での総合学科）

先ほど進路変更する生徒の多さについて述べましたが、かなり指導に苦勞する生徒が多いのも特徴的でした。平成30年ともなれば、教育界でよく話題に上がることに「今の生徒指導困難校には、かつての不良のような生徒は存在しない」ということがありました。しかし、本校では昭和～平成前半くらいの時代の異なる生徒がかなり存在していました。授業は抜け出す、(女子の)化粧が濃い、問題行動を繰り返す、全校集会ではいつまでもざわついている、挙げるときりがなくらいです。いわゆる「やんちゃな生徒」、「落ち着かない生徒」が多く、あまりにも生活がだらしないので、2週間に1回の頻度で整容点検（生活指導）を行っていたくらい、いわゆる“荒れた学校”でした。実態を聞いていて本校に転勤が決まった教員は、相当な覚悟をもって赴任してくるような状態でした。

そのような生徒が多かったのも、“系列＝クラス”にできない背景でした。

また、系列単独の授業があり、かつ自由選択科目があるため、同じメンバーで授業を受けるという機会が少ないのも、落ち着かない生徒が多い原因の1つでもありました。毎時間のように、教室・座席・受講メンバーが変わるため、生徒の立場からすると、授業にも慣れることができず、自分の想像していた高校生活とはかけ離れていたのだと思います。担任も生徒の把握が難しく、まったく授業を持たない生徒を担任しなければならないケースが多々ありました。

総合学科の理想はわかりますが、理想ばかり求めても本校の生徒には合っていない現実がありました。

他の総合学科校に訊いたところ、人文自然系列（進学者対応）だけ

は単独クラスにしていたり、単位未修得で次の年次に上がる生徒はほとんどいなかったり（単位追認の制度あり）など、うちのような問題を抱えてはいませんでした。

以上の問題点を一つでも改善しようということで、次の「教育環境の整備」につながります。

4 教育環境の整備

(1) 追認考査（追認指導）の実施

本校に赴任して、一番に違和感を覚えたのが、追認考査がないことでした。当時の管理職が「追認考査がないから、みんな平気で欠点を出すんだよな…」とつぶやいているのを、よく耳にしました。そこで、追認考査実施に向けて、様々な情報を集めました。そして、次の2点に着目しました。

〈学習指導要領等からの抜粋〉

- ①全ての生徒に履修させる各教科・科目（以下「必履修教科・科目」という。）～（後略）
- ②「学校においては、卒業までに修得させる単位数を定め（中略）～卒業までに修得させる単位数は、74単位以上とする」

①からは必履修教科・科目について履修認定が認められない生徒は、次年度再履修の対象とする。

②から、卒業単位を引き上げ、77単位とし、3年間での卒業が危ぶまれる生徒に対しては、追認指導の対象とし、追認考査を実施して単位を修得させる。

以上のことを前面に押し進め、すぐ単位不認定ではなく、追認指導にもっていく方向にしました。進級させない（単位制ですから進級はないのですが）ためのルールではなく、全員に単位をすべて修得させてから、次の年次に進ませるための仕組み作りとなります。

(2) カリキュラムの整理

カリキュラムで手を付けたのが、自由選択科目でした。人文・自然系列は進学前提なので、選択科目について他の系列と差別化を図りました。それまでは、系列に関係なくいろいろな科目を選択できるようにしていたため、よく言えば自由に科目選択ができましたが、悪く言うと選択が無秩序で進路に必要な科目を選択していない状況でした。具体的に言えば、普通科目（古典、数学B、基礎なし理科…等々）を選択させ、中国語やスポーツなどの選択の余地を無くしました。このことで、そのような差別化を図ることにより、人文・自然系列の単独クラス編成を進めることができました。ただ、これを進めた結果、人文・自然系列の希望者が少なくなったのも事実でした。

(3) ガラス張りの教室

本校の校舎に入ってすぐ目に飛び込んでくるのは、大きな吹き抜けのスペースと、それに面した教室がガラス張りとなっていることです。校舎新築当時（平成10年代半ば）の流行りであったと思われませんが、生徒が落ち着かない要因の1つでした。廊下から常に見られる状態、逆に外が見える状態で、ただでさえ落ち着かない生徒が多いのに、授業に集中できるはずがありません。そこで各教室に目張りをし、少しでも状況を変えるようにしました。



(4) 遅刻の厳格化

平気で遅刻してくる生徒も多かったです。紫波中央駅から徒歩10分と謳っていますが、実際は20分前後かかります。始業15～20分前（始業は8:35）に紫波中央駅着の電車で登校した場合、ほとんどギリギリ、もしくは間に合わない生徒が多く、朝のホームルームに全員がそろわない状態でした。そこで、8時前後に紫波中央駅に到着する電車を登校で利用するように推奨しました。

また、授業も開始10分までは遅れても遅刻ではなく普通に出席に扱うようにしていました。そこも改めて、たとえほんのちょっとであっても遅れた場合、授業の遅刻ということで取り扱うようにしました。遅刻3回で1回の欠席という計算です。

(5) 通級指導

赴任したときには、すでにスタートしていたのですが、落ち着いた環境を作るうえで、大きな役割を果たしているのが通級指導です。全員が1年次に「ソーシャルスキル基礎」という学校設定科目（1単位）を履修します。トラブルを起こす生徒は、対人関係スキルが幼い場合が多く、あらためて集団で過ごすためのルールを徹底しました。今までは、「こんな常識的なこともわからないのか！」という教員側のスタンスだったのを、「こういうことだよ」という共感させるスタンスに

転換しました。始めた当時は手探りで進んでいたのが、年を追うごとにブラッシュアップされていきました。これが、2年次以降の自立活動（通級指導）につながっています。ちなみに本校は全国でも先駆けて、通級指導に取り組んで来たため、世間的には総合学科よりそちらの先進校として一般には知れ渡っています。

(6) 朝学習

朝のホームルームの時間が8:35～8:50という時程で、連絡が終わった後にどの年次も朝学習と称して、何らかの学習（作業）をさせていました。普通の授業すら成り立たない教科・科目がある中で、生徒を落ち着かせて取り組ませるのに、ホームルームに行く先生は大変苦勞していました。無理に朝学習はせずに、朝読書などゆったりとした時間を過ごすように提案して、徐々にその考えは受け入れられてきました。



(7) 系列＝クラスについて

生徒の安定した学習環境のために、進めたいのがこのことでした。いろいろな意見もある中で、系列＝クラスを実施した学年も何度かありました。比較的安定した学年の印象がありました。ただ、系列とクラスの数が違う場合は簡単にはいきません。今がまさにその状態（4系列で3クラス）です。現在は、なんとなく2つの系列をまとめて1クラスなどにして、対応しています。明確なスタイルを示せないなか、ベストの方策がないのが現状です。

5 これからの総合学科と本校（まとめ）

現在の本校は、以前と比較すれば落ち着いた状態と言えます。これまでに挙げた実践が実を結んだとも言えますし、コロナ過だったことが影響しているかもしれません。いずれにしても、赴任した当時からは想像できないくらいに変わりました。在籍生徒数も120名の定員を満たすことはありませんが、1学年当たり80～90名で推移しています。本年が学年3クラスの完成年度なので、職員定数もしばらく安定すると思います。

ただ、職員の定数減が続いたために、多様な選択科目を開講するなどの総合学科として特色の維持はかなり厳しくなったというのが現実です。また、人文・自然系列を廃止したことにより、専門高校の様相を呈しているのも否めません。当然、普通科目の教員が少なくなったので、進路選択において大学進学等は難しいと言わざるを

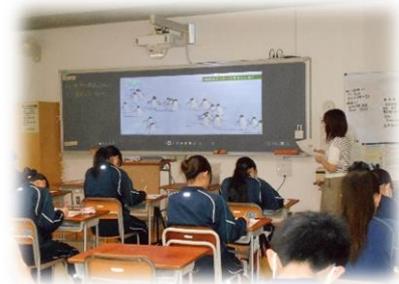


得ません。しかしながら、学校が安定してきたことも見逃せません。いろいろとシンプルにしたおかげで、生徒は落ち着いています。

本校が、思い切った方向性を出せたのは、地域性も大きいと思います。鉄道の便がよく、本校で無理やり進学対応に力を入れなくても、近隣の高校でそれに対応できること。近隣の中学校からは「しわこうであれば要支援の生徒も丁寧に面倒を見てくれる（通級指導等）」という評判で、大学進学等にこだわらない生徒が増えてきたこと。これらがかみ合って、人文・自然系列の廃止に踏み切れました。

総合学科設立当時から、30年が経過し、いろいろなひずみも生じています。多様な科目を開講するためには、職員はもちろんです、生徒数もそれなりの規模でないと無理があります。

また、単位制の仕組みはこれでいいのか？さらに、近年の猛暑に伴う県による教室へのエアコン設置も、普通高校基準でしか考えてもらえません。ICT教育の教室への電子黒板設置も同様です。ホームルームには設置していただいておりますが、選択科目で使用頻度の高い特別教室などは未設置であり、まだまだです。



先ほど述べたように専門高校の様相を呈しているので、系列のほとんどは、近隣の専門高校にも同じような学科があります。産業教育の維持のために総合学科の形としては必要なのか、本校の必要性が問われているのが、現状です。

今後の課題は小さくありません。問題提起で終わりますが、総合学科の今後の形を、教育界全体として検討することが必要です。

第 1 分科会

「教育課程編成及び展開上の諸課題」について
「特徴的な取り組みと諸課題」について

発表 2

—特徴的な取り組みと諸課題—



宮城県石巻北高等学校
教諭 村上 拓也 氏

第1分科会発表

教育課程編成及び展開上の諸課題

—特徴的な取り組みと諸課題—

宮城県石巻北高等学校
教諭 村上拓也

1 はじめに

(1) 本校の概要

本校は大正13年12月28日、鹿又村（現在は石巻市鹿又）の素封家である高橋三郎翁が、女子教育の重要性に鑑み、資産を寄附して宮城県知事から設立認可を受け、宮城県鹿又実科高等女学校として翌年4月1日に開校した。昭和18年には宮城県鹿又高等女学校となり、戦後の学制改革により、昭和23年度より宮城県鹿又高等学校となった。昭和41年に宮城県前谷地高等学校と合併し、同時に農業科を設置、隣接の宮城県立農事講習所と統合して宮城県河南高等学校と改称し、昭和43年に県立に移管された。平成22年に石巻北高等学校へと改称するとともに、石巻地区で唯一の総合学科に改編し、宮城県飯野川高等学校の昼間定時制課程であった十三浜校を石巻北高等学校飯野川校として引き継いだ。総合学科に改編し16年目を迎えた本校は、今年創立100周年を迎える。

(2) 生徒の概要

全年次が総合学科生であり、1年次4クラス97名、2年次4クラス97名、3年次5クラス109名、合計303名（男子171名、女子132名）が学んでいる。（※募集定員は4クラス（160名）であるが、令和5年度入学生までは系列を生かしたクラス編成を実施しているため、3年次では5クラス編成を行っている）

地元出身者（石巻市・東松島市）が9割以上を占めているなど、地域に根ざしている。

【出身地域別生徒数】

	石巻市	東松島市	牡鹿郡	登米市	本吉郡	遠田郡	仙台市
男子	121	42	2	1	0	4	1
女子	98	23	0	3	1	7	0
合計	219	65	2	4	1	11	1

(3) 進路状況

進路達成状況については、昨年度卒業生で、およそ40%の生徒が進学、60%の生徒が就職であり、例年通りの水準である。就職希望者の地元企業への就職志向が強いのが特徴である。

【令和6年度卒業生進路状況】

		進学		就職					臨時就労	進路未定者	卒業者数
		大学短大	専門学校	管内	県内	県外	公務員	自己			
総合学科	男子	9	13	18	5	4	3	1	3	2	58
	女子	10	13	15	9	4	1	2	8	2	64
	合計	19	26	33	14	8	4	3	11	4	122

(4) 校訓・教育目標・キャッチフレーズ

【校訓】

進取 自愛 和協

【教育目標】

高い志を持って主体的に学校生活に取り組みさせることで、生徒一人一人の可能性を伸ばし、自らの未来を切り拓いていくたくましい力を身に付け、地域を支え、地域の人々と共に生きることができる生徒を育成する。

【キャッチフレーズ】

「人の数だけ道がある 一目指せ地域のスペシャリスト」

2 系列

【食農系列】

稲や野菜などの農産物や草花の栽培と、経営に関する知識について学ぶ。また、食品製造実習を通して、食品の加工や、食品を衛生的に取り扱うことのできる安全管理能力を身に付ける。

【家庭系列】

介護福祉・看護・食物・被服・住居・保育の基礎を、実験実習や地域の施設訪問を通して体験的に学習する。また、地域との連携を密にして、郷土食の継承や高齢者向けの献立の開発に取り組む。

【経情系列】

経営・経理・販売の基礎から、PC、ビジネスマナー、経営全般の専門知識を深く学習し、会社や店舗を経営する企業家や経営後継者としての実力を身に付けた経営のリーダー養成を目指す。

【教養系列】

国・数・社・理・英の5教科を重点的に学習し、一般教養を広く身に付け、地元企業が求める資格を積極的に取得し、希望する進路の達成を目指す。また、芸術科目も重視し、豊かな感性を育てる。

【進学系列】

人間・社会・自然についての知識、理解を深め、進学に向けた学習を進める。

3 教育課程

【令和7年度実施 教育課程表】

総合学科													
年次・系列	1年次 (R7入学生)	2年次(R6入学生)						3年次(R5入学生)					
		食農	家庭	経情	教養	進学		食農	家庭	経情	教養	進学	
						文系	理系					文系	理系
1	(必) 現代の国語	論理国語						論理国語					
2													
3	(必) 言語文化	(必) 地理総合						(必) 体育					
4													
5	(必) 歴史総合	(必) 公共											
6								数学Ⅱ					
7	(必) 数学Ⅰ	(必) 体育						英語コミュニケーションⅡ					
8		(必) 保健											
9													
10	数学A	(必) 家庭総合						実習		総合		英語コミュニケーションⅢ	
11								情報		農業と			
12	(必) 生物基礎	数学Ⅱ						情報		農業と			
13								情報		農業と			
14	(必) 体育	(必) 科学と人間生活				国語		デザイン		住生活		数学B	
15								デザイン		住生活		数学C	
16	(必) 保健	英語コミュニケーションⅡ				探検		野食		デザイン		化学	
17								野食		デザイン			
18	(必) 音楽Ⅰ	農業と環境		保育基礎		国語表現		微生物		フード		表現Ⅰ	
19	(必) 美術Ⅰ	環境		基礎		表現		食品		デザイン		表現Ⅱ	
20		環境		基礎		表現		食品		デザイン		表現Ⅱ	
21	(必) 英語コミュニケーションⅠ	実習		福祉		簿記		流通		活用		物理	
22		実習		福祉		簿記		流通		活用		物理	
23		実習		福祉		簿記		流通		活用		物理	
24	(必) 家庭基礎	情報		農業と		情報処理		活用		自由選択科目A群			
25		情報		農業と		情報処理		活用		自由選択科目B群			
26	(必) 情報Ⅰ	食品製造		デザイン		情報処理		活用		自由選択科目C群			
27		食品製造		デザイン		情報処理		活用		自由選択科目C群			
28	(必) 産業社会と人間	(必) 総合的な探究の時間						(必) 総合的な探究の時間					
29													
30	LHR	L H R						L H R					
備考	「産業社会と人間」は、学校設定教科科目	「食と農」は、学校設定科目						「環境概論」「総合社会」および「生涯スポーツ」(自由選択科目)は、学校設定科目					

自由選択科目A群(2単位)

論理国語
総合社会
生涯スポーツ
食品製造
情報デザイン

自由選択科目A・B群(4単位)

生物

自由選択科目B群(2単位)

論理国語
倫理
音楽Ⅰ(除 1年次選択者)
美術Ⅰ(除 1年次選択者)
野菜
簿記(除 経)
情報Ⅱ

自由選択科目C群(2単位)

論理国語
政治・経済
数学C(除 理)
化学基礎(除 進)
地学基礎(除 2年次選択者)
生涯スポーツ
音楽Ⅱ(除 教)
美術Ⅱ(除 教)
情報処理(除 経, 教)

課外設定科目
社会活動 (1~3年次)

4 特色ある取り組み

学習の3つのステージ

(1) 第1のステージ 系列の学び

「通常の授業」の充実

- 【1年次】 共通科目＋産業社会と人間
- 【2年次】 共通科目＋系列における専門科目
- 【3年次】 共通科目＋系列における専門科目＋自由選択科目

(2) 第2のステージ 系列をつなぐ学び

「交流ひろば販売所ーと・ら・ま・いー」

- 【食農系列】 商品の供給
農産物・花卉の栽培と
加工商品の製造
- 【家庭系列】 『と・ら・ま・い通信』、
レシピの作成と配布
- 【経情系列】 精算業務
- 【教養系列】 運営・運営企画立案
- 【進学系列】 運営・運営リーダー



(3) 第3のステージ 系列をこえた学び

「放課後ゼミ」の充実

【資格取得】

各系列が取得することを勧める資格（各系列における学習が資格取得に結びつくもの）については、表のとおりである。

所属する系列以外が勧める資格であっても、進路達成など自らに必要な資格であれば、“放課後ゼミ”を活用して、その取得に努めることができる。

資格名	日本漢字能力検定	実用数学技能検定	実用英語技能検定	ニュース時事能力検定	歴史能力検定	ビジネス文書実務検定	簿記実務検定	ビジネス計算実務検定	秘書技能検定	ガス溶接技能講習	危険物取扱者(乙種)	アーク溶接特別教育講習	フォークリフト技能講習	小型移動式クレーン技能講習	玉掛け技術講習	ローラー運転特別教育講習	小型車両系建設機械(整地運搬積込掘削)	家庭科被服製作技術検定(和服)	家庭科被服製作技術検定(洋服)	家庭科食物調理技術検定	保育技術検定
系列名																					
食農系列	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○				
家庭系列	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	○	○	○
経情系列	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
教養系列	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○				
進学系列	○	○	○	○	○																

【高大接続連携事業】

地域の四年生私立大学である、石巻専修大学の講義を受講し、本校の単位として認定することができる。「生命と地球」「心理学一心の科学」「情報活用法Ⅰ」「地域と政策」「簿記Ⅰ（商業簿記）」など）

【社会活動】

学校設定科目「社会活動」を設定し、各種放課後活動の積み重ねを1つの科目の修得単位として認定する取り組みである。

以下の①～⑥に該当する活動を計30時間以上と、事前・事後指導5時間をもって、1単位が認定される。

- ① 放課後活動への参加
- ② 「交流ひろば販売所—と・ら・ま・い—」でのスタッフ活動
- ③ 校外でのボランティア活動
- ④ 技能審査に向けた活動及び資格取得
- ⑤ 他の教育機関での受講
- ⑥ 外部の進路ガイダンス等への参加

5 諸課題

総合学科16年目を迎えるにあたり、生徒数減少の現状を踏まえながら、社会の変化にどう対応していくかが大きな課題である。「自ら問題を見出して、主体的に解決しようとする生徒」を育成するために、総合的な探究の時間の見直しと、社会活動の充実の2点が重要であると考えます。

本校では、令和7年度入学生より総合的な探究の時間を2年次2単位、3年次1単位に変更した。（令和6年度入学生までは2年次1単位、3年次2単位）これは、大学のAO入試や企業の求める人材を加味して、早い時期から探究活動に臨むことができるようにするためである。

令和7年度入学生 教育課程表

宮城県石巻北高等学校

総合学科												
年次・系列	1年次	2年次					3年次					
		食農	家庭	経情	教養	進学	食農	家庭	経情	教養	進学	文系
1	(必) 現代の国語	論理国語					論理国語					
2												
3	(必) 言語文化	(必) 地理総合					(必) 体育					
4												
5	(必) 歴史総合	(必) 公共					数学Ⅱ					
6												
7	(必) 数学Ⅰ	(必) 体育					英語コミュニケーションⅡ			国語	文学	数学Ⅲ
8												
9												
10	数学A	(必) 保健					実習	総合情報	課題研究	音楽Ⅲ	美術Ⅲ	英語コミュニケーションⅢ
11												
12	(必) 生物基礎	数学Ⅱ					農業と情報	住生活	デザイン	表現Ⅰ	論理Ⅰ	数学C
13												
14	(必) 体育	(必) 科学と人間生活		国語			文学		数学Ⅱ		日本史探究	
15		英語コミュニケーションⅡ		探検			日本史		数学B			
16		英語コミュニケーションⅡ		探検			日本史		数学B			
17	(必) 保健	農業と環境	保育基礎	福祉	生活と福祉	音楽Ⅱ	美術Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ	化学基礎	国語表現	物理基礎	
18	(必) 音楽Ⅰ											総合情報
19	(必) 美術Ⅰ	食品製造	フード	情報と管理	食と農	表現Ⅰ	論理Ⅰ					
20	(必) 英語コミュニケーションⅠ							実習	総合情報	ファッショニング	情報処理	ビジネス基礎
21		自由選択科目A群										
22			自由選択科目B群									
23	(必) 家庭基礎	食品製造		フード	情報と管理	食と農	表現Ⅰ	論理Ⅰ	化学	物理	生物	
24			自由選択科目C群									
25	(必) 情報Ⅰ	食品製造		フード	情報と管理	食と農	表現Ⅰ	論理Ⅰ	化学	物理	生物	
26			自由選択科目D群									
27	(必) 産業社会と人間	(必) 総合的な探究の時間					(必) 総合的な探究の時間					
28		LHR	LHR					LHR				
29	「産業社会と人間」は、学校設定教科・科目		「食と農」は、学校設定科目					「環境概論」「総合社会」および「生涯スポーツ」(自由選択科目)は、学校設定科目				
30		備考	「食と農」は、学校設定科目					「環境概論」「総合社会」および「生涯スポーツ」(自由選択科目)は、学校設定科目				

自由選択科目A群(2単位)

総合社会
生涯スポーツ
情報デザイン

自由選択科目A・B群(4単位)

生物
国語表現(除 教)

自由選択科目B群(2単位)

倫理
音楽Ⅰ(除 1年次選択者)
美術Ⅰ(除 1年次選択者)
環境概論(除 農, 教)
簿記(除 経)
数学A(除 3年次選択者)

自由選択科目C群(2単位)

政治・経済
物理基礎(除 2年次選択者)
化学基礎(除 進)
音楽Ⅱ(除 教)
美術Ⅱ(除 教)
情報の表現と管理(除 経)

自由選択科目C・D群(4単位)

文学国語(除 進文)

自由選択科目D群(2単位)

地学基礎(除 2年次選択者)
数学A(除 3年次選択者)
論理表現Ⅰ(除 教, 進)
生涯スポーツ
生物活用(除 農, 教)
情報処理(除 経, 教)
消費生活

但し、B群環境概論とD群生物活用はセット履修とする

課外設定科目
社会活動 (1～3年次)

また、本校生徒の出身中学校や進路状況を踏まえると、地域に積極的に関わることが避けられないと思われる。社会（地域）・学校・家庭が連携して生徒の主体性と課題解決能力を育成することが必要である。

学校を超えた学びとして、石巻管内の4つの専門高校（石巻北・石巻商業・石巻工業・水産）が共同して行っている「専門教育次世代人財育成プロジェクト」を紹介する。

【事業概要】

令和4年5月の産業教育審議会答申「今後の産業教育の在り方について」の具体化に向けて、地域や産業界と連携し、地域を学びのフィールドとした教育を推進することを目的とする。

石巻地区に所在する県立専門高校を対象とし、事業期間は令和6年度から8年度までである。

【これまでの取組】

○令和6年度

各校の強みを生かし、地域の資源を活用したアイデアの創出や商品等の試作を通じて、学校間連携の定着を図るとともに、その活動の成果を発表する。

4つのチームに分かれて、交流広場を開催した。

内容・コラボフードチームによる笹かまトッピング試食

- ・子ども向けイベントチームによるストラックアウト&スタンプラリー

- ・商品開発チームによるアヒージョ試食

- ・広報・企画ブランディングチームによる広報、チラシ作り

○令和7年度

地域住民・来訪者へ活動内容や地域産業（企業等）の魅力を発信する。令和8年度実施を見据えて、道の駅等を会場としたイベントを開催する。

内容・地場産品を活用した商品開発

- ・地域産業のリバースエンジニアリング

以上のような、学校間の連携が今後必要になると考える。石巻地区において、すべての専門高校が定員割れを起こしている現状では、地域全体を学びのフィールドとし、各専門高校すべてを総合学科化していくようなイメージで考えていく必要があると思う。

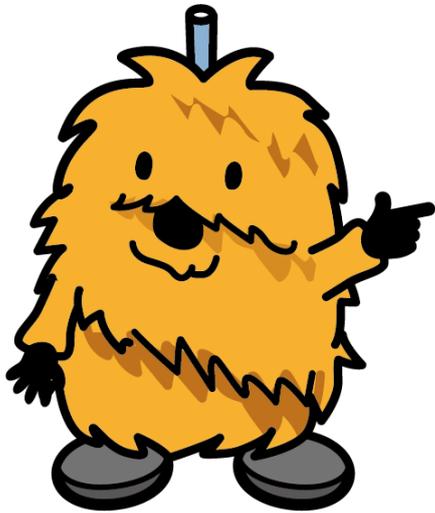
第2分科会

「産業社会と人間」の指導について

「総合的な探究の時間」の指導について

発表1

「地域と協働した魅力ある授業の展開を目指して」



福島県立福島北高等学校
教諭 箭内 奨 氏

第2分科会発表I

本校における「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の取り組みについて

—地域と協働した魅力ある授業の展開を目指して—

福島県立福島北高等学校
教諭 箭内 奨

1 本校の概要

本校は福島県福島市にある飯坂町に所在し、摺上川とその支流赤川の流れを中央に1689年には俳聖松尾芭蕉が奥の細道の途中に立ち寄ったとされる歴史ある温泉地、飯坂温泉の麓に位置している。近郊には、果樹園が立ち並ぶフルーツラインがあり、個人、団体問わず、四季を通じて果物王国福島の味覚を楽しむことができるため、多くの観光客が訪れている。

本校は「きみの夢が動き出す」をスローガンに掲げ、総合学科という多様な学びの場で、自ら課題を設定し探究を通じて学びを深め、社会に貢献できる資質と能力を培っている。

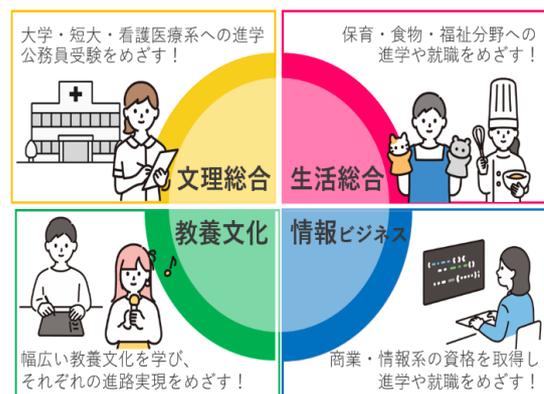
例年の進路概況は、進学が約6割、就職が約4割となっている。進学のうち約2割が四年制大学、約3割が短大となっており、専門学校が約5割である。

(1) 本校の沿革

本校は昭和23年、福島県立信夫高等学校飯坂分校として開校し、昭和49年に福島県立福島北高等学校と校名変更してからさらに歴史を積み重ね、平成13年に総合学科としての教育活動をスタートした。県北地区では2番目に総合学科に改編し、総合学科第1期生7学級280名が入学した。その後は、学級減が続き、令和5年度入学生からは3学級となっている。また令和9年度には、同じ福島市内にある福島県立福島西高等学校と統合し、総合学科を設置した教育活動を行っていくことが予定されている。

(2) 4つの系列及び教育課程

総合学科設立当初は7つの系列となっていたが、平成31年度入学生より4つの系列へ整理統合がなされた。系列の意味合いも「学習内容の指針となる科目のゆるやかなまとまり」から「進路実現にむけて選択するまとまり」となり、生徒は2年次



より各系列に所属して学習している。

現在設置されている系列は以下の通りとなっている。

【文理総合系列】

国数英を中心に地理歴史・公民、理科などの受験に必要な科目を選択し、大学、短大、看護医療系専門学校等への進学や公務員試験の合格を目指す。

【生活総合系列】

保育や食物、福祉のいずれかの分野を中心に、国数英などの受験に必要な科目を学習し、保育・食物・福祉の分野の大学・短大・専門学校等への進学を目指す。

【情報ビジネス系列】

商業・情報系資格（簿記検定・情報処理検定等）取得を目指して学習し、就職や専門学校への進学を目指す。

【教養文化系列】

幅広い教科・科目を選択し教養を身につけ、就職や興味・関心のある分野の専門学校への進学を目指す。

2 本校での取り組み概要

「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」の概要は以下の通りである。校内には教務部学習研究係があり、「産業社会と人間」や課題研究の運営の中心を担っている。

	単位数	内容	指導体制
1年次 産業社会と人間	2	・地域理解学習 ・自己理解 ・キャリア教育	1年次担任・ 副担任・学習 研究係
2年次 総合的な探究の時間	1	・グループ研究 (修学旅行など)	2年次担任・ 副担任
3年次 総合的な探究の時間	2	・課題研究 (一人1テーマ)	各講座担当者 (R7は9名)

3 「産業社会と人間」の取り組み

本校では、体験的授業をとおして社会で必要とされる「聞く力」「書く力」「まとめる力」「話す力」「発表する力」の5つの力の育成を目指し、自己理解を進めるとともに望ましい勤労観・職業観を育成することを目標としている。以下に本校での取り組みを紹介する。本校では自主教材（ワークシート）を活用し、授業を展開している。また、定期考査等は実施せずワークシートの確認をすることで、評価を行っている。

(1) 年間計画

本校では教務部学習研究係が中心となって「産業社会と人間」の授業を運営している。年間の大まかな流れは、以下の通りである。

月	単元	テーマ
4月	自己理解 地域理解	適性診断 花ももの里散策
5月	職業と進路	上級学校見学
6月	科目選択	ガイダンス、先輩の話を聞く会
7月	科目選択	科目選択作業
8月	キャリア教育	職業インタビューに向けて
9月	キャリア教育	職業インタビュー体験談、マナー講習会
10月	キャリア教育	職業インタビュー準備
11月	キャリア教育	職業インタビュー
12月	キャリア教育	職業インタビューまとめ・発表
1月	地域理解	飯坂町巡検
2月	ライフプラン	ライフプランの作成・発表
3月	キャリア教育	職業別体験型ガイダンス（外部委託）

以上の流れとなっている。次に単元ごとに本校の取り組みを紹介する。

（２）地域理解学習

事前学習の講演会を地元の飯坂サポーターズクラブ（４月）や飯坂温泉観光協会（１月）の方を講師として依頼し、お招きしている。

① 花ももの里散策（４月）（図１）

例年、入学直後に実施する。地域理解入門として、地元の方を講師として迎え、前日に講演会を実施している。なお、当日は花ももの里の案内にも御協力いただいている。

② 飯坂町巡検（１月）（図２）

飯坂町にある文化財や産業に直に触れることにより、飯坂町の文化や歴史への理解をより深めるとともに、地域の活性化や地元産業について考える。事前に外部講師による講演会を依頼し、飯坂町への理解をさらに深める学習としている。

訪問先は、医王寺や旧堀切邸といった史跡を訪れる。事前に調べ学習を行い、事後はそれぞれのグループでまとめ学習を行うことで、学校のある飯坂町についての探究学習を行っている。



図１ 花ももの里散策の様子



図２ 飯坂町巡検の様子

(3) 自己理解

① 職業適性診断 (4月)

入学直後、実施する。診断結果についても5月を目安に解説していただき、生徒の進路やキャリア教育への興味・関心を高めるきっかけとしている。

② ライフプラン (2月) 図3

「私のライフプラン」作成にあたって

「産業社会と人間」での学習を振り返りながら、これからの自分の人生をどのように生きていくのか、学校生活も含めたライフプラン(人生設計)を考えて、それを作文(600字を目標:後期評価に含む)の形で表現してください。

将来に大きな夢を持っている人、まだまだ進路希望が定かではない人、人それぞれかとは思いますが、この作文作成をとおして、改めて、自分の将来について考える機会になってほしいと思います。進路が「決まっている人」は決まっている人なりに、まだ「決まっていない人」は決まっていない人なりに作文を書いてください。

まず、作文をする前にワークシートを使って、作文にする材料、考えなどを整理してください。ただし、作文の中にこのワークシートの内容をすべて網羅する必要はアリアません。作文は自由に書いて下さい。

完成したら2月19日にクラスで発表を行います。

ほかの人が、「どのようにライフプランを考えているか」ということも、大いに興味のあるところですし、参考になることがあるはずです。みなさんは4月からの高校生活の中でどれだけ成長したでしょうか。堂々と発表し合って、お互いを高め合えれば何よりです。

【進路に関する産社の授業の振り返り】

- ・適性検査 COM=PASS (4月実施)
- ・職業について 職業に関するDVD鑑賞 (4月実施)
- ・職業講話 (パズルワーク) (5月実施)
- ・上級学校見学会 (5月実施)
- ・進路講話 (COM=PASS 解説) (5月実施)
- ・職業講話・フューチャーライブ (7月実施)
- ・職業インタビュー (11月実施)



振り返ると産社では様々な授業を行ってきました。そして、相談に乗ってくれた家族や先生、先輩方皆さんは、これらのことからどんなメッセージを受け取りましたか？

図3 ライフプラン作成

上記の資料は、昨年度使用したものである。1年間の「産業社会と人間」の取り組みの総まとめとして、自身のライフプランを作成し、クラス・年次で発表している。

(4) キャリア教育

本校生の進路が先述の通り、おおむね6割が進学、4割が就職となっているため進学・就職それぞれに対応できるキャリア教育の内容を準備している。

① 上級学校見学 (5月) 図4～5

上級学校についての理解を深め、今後の進路や科目選択等に役立てるために実施している。令和7年度は、午前中に1年次全員で仙台市内の四年制大学を見学し、午後はそれぞれの興味関心に応じた専門学校等に分かれて見学した。



図 4 上級学校見学の様子①



図 5 上級学校見学の様子②

② 科目選択（6～7月）

系列や科目選択のミスマッチを防ぐため、授業内において系列説明会や科目選択説明会はもちろん、3年次生を講師として実際の科目選択について経験談を話してもらう場を設けるなど、生徒が適切な選択をできるように丁寧な指導体制を整えている。

③ 職業インタビュー（11月）図6～7

本校の産業社会と人間の授業における核となる単元である。原則一人一社を訪問し、職業と社会生活一般について実践的に学び、進路決定に役立てる機会としている。

・実施手順

- ①各自訪問希望先（福島市近郊）を検討する。（7月）
- ②プレゼンテーションの仕方について学ぶ。（8月）
- ③2年次生による体験談（9月）
- ④外部講師によるマナー講習会（9月）
- ⑤生徒によるアポイント実践（10月）
- ⑥職業インタビュー実践→まとめ・発表（11・12月）



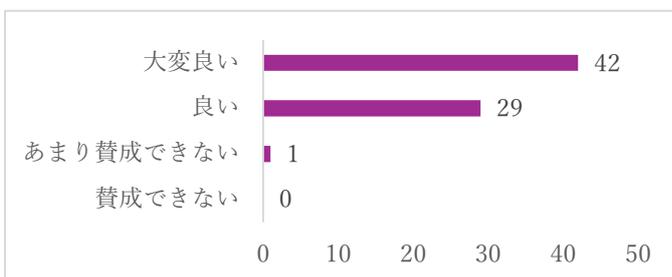
図 6 代表生徒の発表①



図 7 代表生徒の発表②

【事業所へのアンケート結果】※令和6年度

①生徒が自らアポイントを取り、インタビューを行う方式



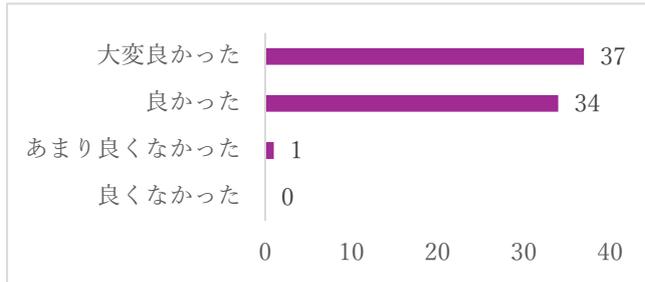
大変良い・・・58.3%
 良い・・・40.3%
 あまり賛成できない1.4%

② 訪問した生徒の電話やインタビューのマナーについて



大変良い 51.4%
 良い 47.2%
 あまり良くなかった 1.4%

③ 生徒のインタビュー内容について



大変良い 51.4%
 良い 47.2%
 あまり良くなかった 1.4%

以上の通り、事業所からも好意的な回答がなされ、本事業の取り組みが評価されていると考えている。

4 「総合的な探究の時間」の取り組み

(1) 2年次(1単位)

年次担当者(年次教務)が主担当となり、年次が中心となって運営している。

① プレ課題研究

「産業社会と人間」の授業で培った力を活かし、グループでの探究活動に取り組む。3年次での課題研究に向けて、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のプロセスを重視し指導にあたっている。例年、修学旅行の事前・事後学習にとどまらず、福島市の課題と関連させて福島市との比較などを行い、探究的な学習を行っている。昨年度はSDGsをベースとし、県庁や市役所とコラボした出前講座を行うなど、年次の意向を踏まえ展開した。



図 8 代表生徒の発表①



図 9 代表生徒の発表②

② 課題研究に向けて

1月から3年次の課題研究に向けた仮テーマを設定する。アドバイスシート（図10）を作成し、2月に仮担当者による指導を行う。進路希望と地域課題の両面からテーマを設定するよう指導し、年間計画も検討する。

総合的な探究の時間Ⅰ 課題研究アドバイスシート ※1月29日(水)朝のSHRまでに提出				2月4日(火)実施
2年 組 番 氏名			担当アドバイザー_____先生(確認サイン)	
項目	生徒記入欄			アドバイス記入欄
課題				<input type="checkbox"/> このテーマで研究が進められるの など <input type="checkbox"/> これでもOK <input type="checkbox"/> 絞り込みが必要 <input type="checkbox"/> 変更の必要あり
仮説				
課題設定条件	【進路希望から】	【系列や科目から】	【地域課題から】	
課題設定理由				
研究活動	調査研究・作品制作・その他()			
調べの内容 (①-④すべて記入)	①	②	③	<input type="checkbox"/> 他に調べた方がよいことはないか・テーマに沿わない内容はないか など
調べの方法 訪問先 等 (①-④すべて記入)	①	②	③	<input type="checkbox"/> 他によい方法はなにか など
地域との関わり (校外活動など)				<input type="checkbox"/> 地域の現状・課題との関わり・地元企業に訪問・ポスター掲示 など
最終的に 目指すこと				<input type="checkbox"/> H.P.の作成・面接試験でのアピール材料・作品制作 など

図10 アドバイスシート

(2) 3年次(2単位)

2年次末に検討した仮テーマを軸に本テーマを決定していく。4月に学習研究係からオリエンテーションを行い、早速講座に分かれて本テーマを設定し、課題研究に取り組んでいく。本校では、調査してまとめる調べ学習に留まらず、校外学習を積極的に行うよう指導している。

校外学習は、基本的に探究Ⅱの時間内か休業日に行うようにしているが、今年度からは外部団体の企画など日時が指定されている場合は担当・管理職の許可を受ければ公欠を認め、生徒の積極的な探究活動を支援している。また図11のような道しるべを毎年作成し、課題研究に関する困りごとへの解決策やその手順を可視化している。また、司書の方にも御協力いただき、生徒のテーマに応じた参考図書を紹介も行っている。毎年、個性あふれるテーマが設定され、生徒の興味関心や進路希望に応じた課題研究が行われている。

令和7年度	
「課題研究」の道しるべ	
福島県立福島北高等学校 学習研究係	
(2025年4月発行)	
	
目次	
年間授業計画	
1. はじめに	P 1
2. 1年間の研究の流れと評価	P 1
3. 研究の進め方	
(1) 「研究課題」を確定しよう	P 2
(2) 研究方法を考えよう	P 4
(3) 研究計画を立てよう	P 6
(4) 研究を進めよう	P 7
(5) 発表会で発表しよう	P 8
(6) 「研究報告書」を執筆しよう	P 9
4. 研究における留意点	P 13
5. 図書館の利用について	P 15
6. 校外学習にあたって	P 17
7. パソコン室、図書館の利用上の注意	P 22
3年 組 番 氏名 _____	

図11 「課題研究」の道しるべ

テーマ例 ※令和6年度

- エプロンシアターでコミュ力UP → 市内保育園での実演
- 書道の筆の可能性 → 身近な植物を使った筆による作品制作
- イメージキャラクターをつくろう → 地元製菓店に協力依頼
- 異文化を理解するには → 市内で制作展示会を実施
- 手話で楽しむわらべうた → ほこみち社会実験での発表

講座担当者1人あたり生徒10名程度で講座編成を行っている。生徒のテーマに応じて6つの分野に分けている。7月に講座別の中間報告を行ったのち、さらに探究活動を深め11月に講座の最終発表、12月に分野の代表者を決め校内発表会を行っている。

近年は「産業社会と人間」の学習を活かし、地域と協働した課題研究に積極的に取り組んでいる。こうした成果として、福島県の生徒研究発表会において本校代表生徒は展示部門最優秀賞（R4・R5・R6）、口頭発表部門最優秀賞（R5）を受賞しており、本校の取り組みが評価されていると考えている。

5 課題と展望

本校では総合学科関連業務は教務部学習研究係が担っている。実務面では「産業社会と人間」を主管しているが、「総合的な探究の時間」については各年次が主導する形で運営されており、年次や教員間の温度差が出やすい環境であることは否めない。以前は学習研究部があったが、クラス減に伴う校務分掌の再編で教務部の中に設置されたこともあり、部主導で3年間系統立てた学習活動を展開することや各年度の反省を部として集約し、次年度以降に活かすことが難しい状況ともいえる。

本校は令和9年度より福島県立福島西高等学校との統合が決定している。新設される統合校は「進学指導重点校」に位置付けられ、総合学科のほかにもデザイン科学科、探究科の設置が予定されている。統合校では、3年間の系統的な学習活動が展開されるような仕組みづくりが必要だと感じている。進路活動にも生かすことができるよう、生徒の課題研究を把握し適切な支援を行うことができるような校内体制を整え、総合型選抜へも対応できるような統合校のスタンダードを検討し、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」のカリキュラム策定を行っていかなければならないと考えている。

第2分科会

「産業社会と人間」の指導について
「総合的な探究の時間」の指導について

発表2

「村田高校の総合的な探究」



宮城県村田高等学校
教諭 大石 真人 氏



宮城県村田高等学校
Miyagi Prefecture Murata High School

村田高校の総合的な探究
大石 真人

トピック

- 1 地域・学校紹介
- 2 産社・総探の全体計画
- 3 主な活動内容・過去の事例
- 4 問題点・課題
- 5 まとめ

1-1 地域の紹介
宮城県柴田郡村田町村田宇金谷1



東北自動車道 村田IC



村田の見どころ

- ・道の駅 村田
- ・白鳥神社 (乾坤一の蔵元)
- ・宮城オルレ村田 コース
- ・民話の里
- ・龍島院
- ・菅生サーキット
- ・村田城跡など



まとめる
と...



自然あり 歴史あり ICあり 雇用あり
(どは屋も多い)

沿革

大正13年(1924)「宮城県村田実科高等学校」開校
 昭和23年「宮城県村田高等学校」普通科・家政科
 昭和43年 普通科・家政科・自動車科
 平成 2年 普通科・生活科学科
 ・自動車科・電子機械科
 令和6年(2024) 開校100周年

平成7年 県内初の「総合学科」設置



平成27年～4系列

機械・自動車	主に製造業への就職などを希望する生徒に対し、実習を含めて工業科の科目を中心に学習
商業実践 統合?	主に事務職・販売職・営業職への就職などに向けて、特に商業科目を多く学び、資格取得にも積極的に挑戦
言語・自然科学	主に大学・短大・専門学校への進学や、公務員などを目指す生徒を対象として、普通教科を中心に学習
介護福祉	主に介護施設職員などの福祉関係への就職を目指す生徒を対象に、福祉科の科目を中心に学び、資格を取得

生徒の実態

怒がアス割れて
ないんですね！？

- ・**純朴**で落ち着いた子が多く、指導には素直に従う。
- ・**人数**は全体で**148名**(3年:58名 2年:55名 1年:35名)
- ・**欠席・遅刻・早退、トイレ退**出、**保健室**利用が多い
- ・**部活動**の加入を義務付けているが、**活動日**の少ない**文化部**に人が集まらず、**何かに打ち込む**とする生徒が少ない。
- ・**例年、3年生**の過半数が就職を選択している。**大学進学**は**1~2割**、他は**専門学校**へ進学。**就職先**は**仙南地域**がほとんど。

昨年(24)山大合格者が

R7教育課程表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

必修科目

選択科目

系列の選択授業

14~16単位

位 / 30単位

村田高校 時程		運動部・同好会		文化部	
朝読書・朝学習	8:35~8:45	バドミントン	コンピュータ部		
SHR	8:45~8:50	バスケットボール	華道部		
1校時	9:00~9:50	卓球	美術部		
2校時	10:00~10:50	バレーボール	吹奏楽部		
3校時	11:00~11:50	ソフトテニス	家庭部		
4校時	12:00~12:50	柔道	機械・自動車部		
昼休み	12:50~13:35	剣道			
5校時	13:35~14:25	陸上(休)			
6校時	14:35~15:25	硬式野球(休)			
掃除・SHR	15:25~15:45	空手道同好会			

要するに...

- ・他校と授業をつなげる！
(本吉響へ送信・伊具から受信)
(産社で小牛田農林と送受信)
- ・教員配置等の都合で開講できなかった授業が選べるように！
- ・今後はVR機器等も導入して仮想体験を伴う授業も見える！かも

みやぎDXハイスクール

宮城県村田高等学校 総合学科

取組内容

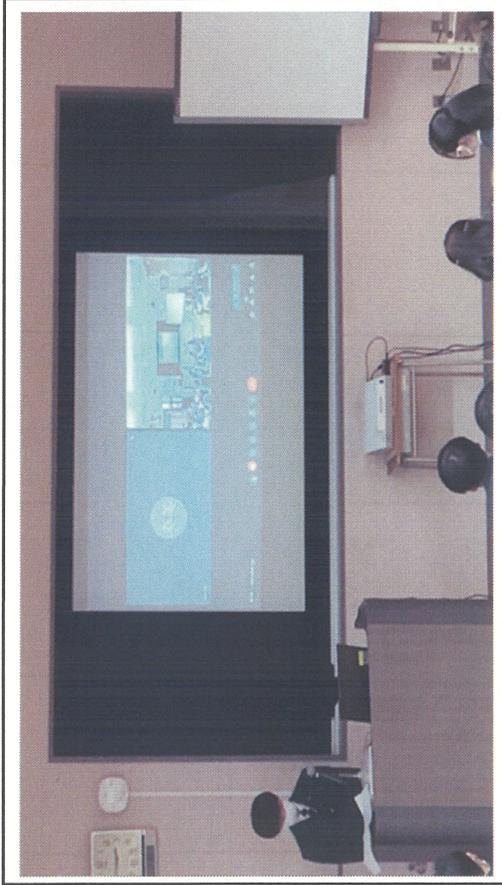
総合学科3校間で送受信 ネットワークを構築！

本校

A校 B校

3校間送受信ネットワークの構築

情報社会に主体的に 参画する生徒を育成！



13

2 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の計画

本校の教育目標

- 校訓 **誠意 勤労 識見 気魄 協和**
- スローガン **生活に活気、学習に意欲、行動に責任**
- 教育目標

知・徳・体の調和のとれた幅広い力量を備え、夢と志を持って社会や地域の発展に貢献できる生徒の育成を目指す。

- (1) 主体的に考えて行動できる力を持ち、自らの夢や希望の実現を図れる生徒の育成
- (2) 歴史や文化および規範を尊重する心と責任感や思いやりの心を持った生徒の育成
- (3) 健康な体を持ち、基本的な生活習慣を身に付けた生徒の育成

14

本校における「総合的な探究の時間」の目標

(1) 「産業社会と人間」をとおして学んだことに基づき、発展的な活動に取り組み、主体的に活動させる。
 (2) 学んだ内容や活動成果をまとめたり、発表することをおしてプレゼンテーション能力を身に付ける。
 (3) 構造的・総合的な学習をとおして自己のあり方や生き方を探究し、社会や地域のために、独自の視点や関わり方で主体的に課題を設定し、協働的に解決する能力を育成する。

目標達成に向けて…

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
各活動や各教科の学習をとおして得られた 知識等を相互に関連付けながら、自己と社会との関わりについての理解を深め 、社会の中で果たすべき役割等を理解できるようにする。	活動をとおして学んだことを基に、他者と関わりながら活動することをおして、 自己の課題を把握し 表現したり、課題を解決する過程でより 適切な方法を見いだそうとし たりする。ことが出来るようになる。	活動をとおして学んだことを基に、他者と関わりながら活動することをおして、 多様な価値観について知り、協働して課題の解決に当たろうとする 態度を養う。

15

目標実現のための各学年の探究課題

1 年次【産業社会と人間】(2単位)	2 年次【総合的な探究の時間】(2単位)	3 年次【総合的な探究の時間】(1単位)
「自己理解・基礎学習」 ・職業適性検査 ・職業調べ ・科目選択 ・職業人講話 ・ポランティア活動 ・学校/職場見学 ・3年生との懇談会 ・ライブアプラン(作成・発表) など	「進路選択・発展学習」 ・進路講話 ・進路希望別ガイダンス ・マナー講習会 ・インターンシップ ・ポランティア活動 ・地域学習 ・進路説明講座 ・3年生との懇談会 ・進路実現に向けての面接指導 など	「進路実現・応用学習」 ・社会人基礎力講座(ビジネスマナー講座、消費者教育など) ・進路希望別ガイダンス ・ポランティア活動 ・研究課題発表 など

16



生徒は様々な刺激を受けながら、自分の将来について考え始める時期。

3-2 2年次の総探

- **インターシップ** (4月~7月)
- **修学旅行** (9月~1月)
- **法教育講座・金融教育講座・選挙出前講座**
求人票の見方・面接講座・進路希望別ガイダンス (1月~3月)

その他 (地域連携活動R4) ...蔵を使ったビジネス体験
→SDGs Quest みらい甲子園 南東北エリア大会出場・トヨタカローラ山形賞受賞

- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 進路

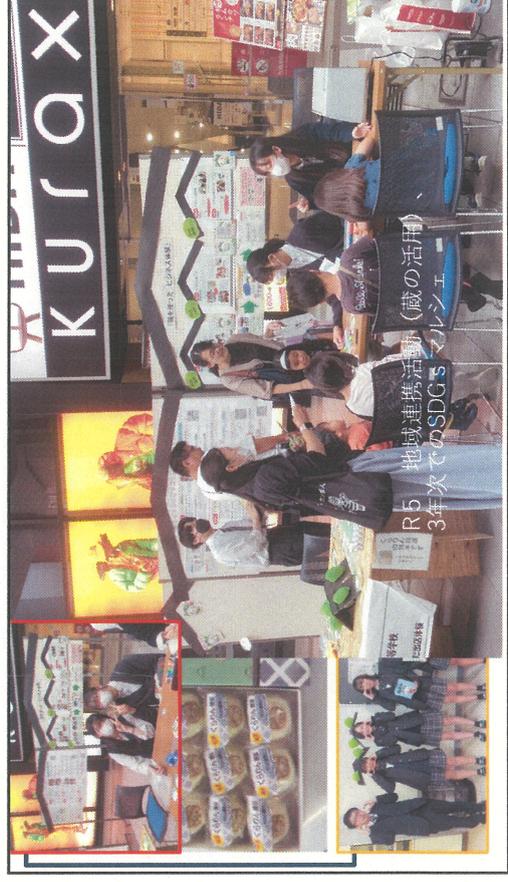
協力企業の声

- ・ 生徒は礼儀正しく、積極的に取り組んでいた。
- ・ 親身になって子供たちに接していて、よく懐いていた。
- ・ 元気がよく自分から仕事を探す姿勢が素晴らしい。

スポーツショップ

保育園

整備工場



3-3 3年次の総探

- 進路別学習(4月~10月)
- 面接練習(8月~10月)
- 模擬面接会(9月)with 一般企業
- 探究活動(10月~)
- 社会人入門講座(11月~)

その他:3年間の学び発表会(R5)



3年間の学び発表(R5)

裁判所見学(R6)

模擬面接(R5)

- ・進路別学習...就職と進学で分け、それぞれで必要な準備を進めていく
- ・社会人入門講座...法教育や年金口座、スーツの着こなし講座、メイク講座など、社会人として身に付けておくべき知識を外部講師を招いて講義してもらう

模擬面接会

令和5年度から始まった取り組み。学校の近くの味噌屋さんからの発案で始まった。面接だけでなく、「働くこと」「社会人の心構え」などのテーマでパネルディスカッションも行う。

今年度参加企業	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・東北特殊鋼株式会社 ・村田町観光物産協会 ・スポーツランドSUGO ・行政書士 合同会WAKUWAKU ・ライフアクリエイト ・村田町役場 ・柴田郵便局 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりが強く固くなる ・本物の企業人が面接の練習をしてくれるため、本番に近い雰囲気・緊張感で取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・「面接」の練習なので、個人情報取り扱いが難しい。 →協力してくれる方は人事部などが望ましい ・悪い印象を与えてしまった場合、その企業を受け取る本校の生徒が不利益を被る可能性がある

4 課題・問題点

総探の計画・実施が学年主任に一任されており、主任の負担が大きくなり3年間の計画的・効果的な取り組みになりにくい。(評価含む)

<p>見通しが立ち、主となる教員の配置や必要な準備が効率的に行える！</p> <p>前年度の反省等もきちんと引き継げる！</p>	<p>上級生の取り組みを見る機会などを設ければ、生徒自身も自分の学びをイメージしたり調整したり取り組みを参考にしたりできるように！</p>	<p>学校を挙げて取り組むことで、活用できるリソースや参考事例の共有がスムーズに！</p> <p>DX事業</p>
--	---	--

5 まとめ

- **地域の特色・ポテンシャルを理解**
→村田はよいところです。生徒が誇れる地域にできれば…
- **総探の整理** (計画立案、修学旅行や進路活動を、どこまで総探の取り組みとするか等)
→喫緊の課題
- **減少する生徒数への対応**
→系列再編・DX事業の発展・活用
- **ICTの活用**
→教員も生徒ももっと様々な形で活用できたら…

ご清聴ありがとうございました

第3分科会 「進路指導」について
発表1

山形県立左沢高等学校の現状と課題
ー地域と目指すウェルビーイングー



山形県立左沢高等学校
教諭 中里 岳 氏

第3分科会発表

山形県立左沢高等学校の現状と課題

ー地域と目指すウェルビーイングー

山形県立左沢高等学校
教諭 中里 岳

1 本校の概要

本校は今年で創立77周年を迎えた。総合学科移行は平成25年度である。山形県のほぼ中央部に位置する大江町に所在し、眼前に最上川を、南西には朝日山地の雄大な山々を望むことができる自然豊かな環境に校舎がある。教育目標は「学校のウェルビーイングを追求し、地域社会を担う有為な人材を育成する」である。地元企業に就職を希望する生徒も多く、様々な支援を大江町から受けるなど地域社会の本校への期待も大きい。近年は生徒数の減少が進み、令和6年度から実質的に一年次1クラスとなった。今年度の在籍生徒は82名である。

2 系列について

「地域共創」「ビジネス/園芸」の2系列を設置している。本校は系列ごとの選択ではなく、自分の興味・関心や進路希望に応じて系列の枠を超えて、科目を自由に選択できるようにしている。

(1) 「地域共創系列」

地域社会の諸課題の解決に主体的に取り組む姿勢を育むため、学校設定科目「地域史探究」の学習等を通じて、地域と協働するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することを目指す。豊かなコミュニケーション能力を身に付け、地域の文化や自然についての理解や探究心を高めることにより、四年制大学や短期大学等の高等教育機関、看護・医療系の専門学校等の進路を意識した科目群となっている。

(2) 「ビジネス/園芸」系列

地域社会や地域産業の発展に貢献できる資質・能力を育むため、商業や農業科目の学習を通じて、地域で活躍するために必要な知識や技術を育成することを目指す。商業や農業の専門科目の基礎的・基本的な力を身に付け、その相乗効果も図りながら、実用的な資格取得や上級学校でのより高度な学びにつなげ、就職やその他の専門学校等の進路目標により、地域社会への貢献を希望する生徒を意識した科目群となっている。

3 進路状況について

本校の進路は4年制大学から就職まで多岐にわたっている。

進学については、専門学校が多くを占めている。短期大学・専門学校は、山形県内か、仙台市内への進学が多い傾向にある。また大学・短大・専門学校、各種学校への受験は、全員が学校推薦型入試（公募推薦・指定校推薦）、総合型選抜入試、AO入試のいずれかを利用している。

就職については、この3年間は多くの生徒が県内民間企業へ就職している。特に本校の所在地である西村山地区管内の地元就職が多い傾向にある。また、公務員の内訳は警察官と自衛隊である。

表1. 過去3年の進学・就職の人数

卒業年度 (令和)	進学			就職			その他 (未定者等)	合計	
	大学	短大	専門	公務員	県内民間				県外 民間
					西村山地区	西村山地区以外			
4年	1	3	14	2	12	5	0	1	38
5年	4	3	12	1	19	10	1	1	51
6年	1	2	10	2	13	4	0	0	32

表2. 主な進学先

卒業年度（令和）		4年	5年	6年
4年制 大学	東北農林専門職大学農林業経営学部			1
	東北芸術工科大学デザイン工学部		1	
	札幌大学地域共創学群		1	
	東北文化学園大学経営法学部		1	
	常盤大学総合政策学部	1		
	東海大学体育学部		1	
短期 大学	東北文教大学短期大学部	1	1	
	羽陽学園短期大学	1	2	1
	東北生活文化大学短期大学部	1		
	仙台青葉学院短期大学			1
各種 学校	東北農林専門職大学附属農林大学校		1	1
	山形県立産業技術短期大学校			3
	山形職業能力開発専門校	1	1	
	山形厚生看護学校	1	1	

4 本校の進路指導

1 年次

- ・ 学びの基礎診断（4月、12月）
基礎学力の習得と学習意欲の喚起。
- ・ 職業レディネステスト（6月）
自分の特性からどんな仕事に適性があるのかについて知るだけでなく、世の中にどのような仕事があるのかを知る。
- ・ 進路講話（社会人による講話）（6月）
県のキャリア教育推進事業「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」を利用。県内で活躍している人の話を直にお聞きし、自らが地域産業を担う人材であるという意識を高める。
- ・ 職業インタビュー・発表会（7月）
インターンシップの事前学習として、「働く」ということについて考えるきっかけとする。
- ・ インターンシップ（9月）
1市4町の企業に分かれて実施。地元の産業に対する理解を深めるとともに、望ましい職業観・勤労観を育て、挨拶・言葉遣い・礼儀作法を学ぶとともに、進路選択の意識付けとして実施する。
- ・ ライフプラン作成・発表（1月）
現時点での自分のライフプランを考え、発表を行う。ライフプランを考えたり、将来の自分をイメージすることで、今やるべきことが見えてきたり、現在の生活を見つめなおしたりするきっかけとする。
- ・ 進路体験を聴く会（進路が決定した3年次生の体験談）（3月）
体験談を聞くことで、進路希望実現に向けての情報を集めるとともに、より具体的な進路学習に取り組む契機とする。

2 年次

- ・ 学びの基礎診断（4月、12月）
基礎学力の習得と学習意欲の喚起。
- ・ 進路ガイダンス①（6月）
（株）ライセンスアカデミーの協力を得て、大学・専門学校等、公務員、民間企業について講師を招き、講話をいただいたくことで、各自の進路について理解を深める。
- ・ ビジネスマナー研修会（7月）
就職を希望する生徒が、夏季休業中に参加するインターンシップに向けて、寒河江市商工会の主催する研修会に参加することで、社会人としての礼儀作法・言葉遣い等を学ぶ。
- ・ インターンシップ（7月～8月）
寒河江市商工会が主催するもので、就職希望の生徒が寒河江市の企業2か所にインターンシップに行く。地元の産業に対する理解を深め、進路選択の意識を高める。

- ・就職ガイダンス，地元企業説明会（12月）
就職活動の具体を学び、志望理由書の作成や面接について体験することで、次年度の就職活動に備える。ハローワーク寒河江が主催し、(株)ランゲートが運営する。
- ・進路ガイダンス②（1月）
外部講師の講話を通じて、進路希望実現に向けて情報を集めるとともに、より具体的な進路学習に取り組む契機とし、進路意識向上を図る。
- ・進路体験を聴く会（進路が決定した3年次生の体験談）（3月）
体験談を聞くことで、進路希望実現に向けての情報を集めるとともに、より具体的な進路学習に取り組む契機とする。

3年次

- ・進路ガイダンス（5月）
(株)ライセンスアカデミーの協力を得て、大学・専門学校等の各学校、公務員、民間企業について講師を招き、講話をいただいたり、面接練習を行ったりすることで、各自の進路について理解を深める。
- ・志望理由書き方講座（5月～7月）
文書の作成について学びつつ、添削を重ねながら文書作成技術を向上させる。
- ・生徒保護者対象進路日程説明会（6月）
生徒・保護者同席で進学・就職試験までの流れについて説明をする。
- ・職場見学（7月～8月）
7月の求人公開後、夏休み前までに職場見学の希望を提出する。1人3社程度。夏休み中に三者面談と同時進行で見学に行く。
- ・夏期就職・進学セミナー（7月～8月）
夏休みに入り、進学と就職に分かれ、面接についてのセミナーを行う。また、就職については履歴書を作成する。
- ・面接個別指導（8月～9月）
2学期始業直後から全教員による面接個別指導、および大江ロータリークラブの方を講師に招いて実践面接指導を行う。
- ・進学希望者個別指導（9月～11月）
専門学校、各種大学校、短大、四年制大学の進学希望者を対象に、面接、小論文、志望理由書等について全教員による個別指導を行う。
- ・各種教養講座の実施（1月～2月）
「弁護士による消費者生活出前講座」、「スーツ着こなし・メイクアップ講座」、「ライフデザインセミナー」、「新社会人スタートアップセミナー」

5 本校の特徴的な取り組み

(1) 2回のインターンシップ

本校では3年間でインターンシップに参加する機会が2回ある。

1回目は1年次生全員が「産業社会と人間」の授業の活動の一つとして、学校近隣および生徒在住市町のロータリークラブと商工会から紹介してもらった事業所に行く。目的は職業観の醸成であり、必ずしも自分の希望する事業所で実施できるとは限らない。なお、事業所への挨拶と生徒の様子を見るために、実施期間中に1年次の教員が分担して全ての事業所を訪問する。

2回目は寒河江市商工会が主催し、夏季休業中に実施される。2年次生の就職希望者全員に加えて、進学希望者の中で将来就きたい職業について学ぶために希望する者も申し込みをして参加する。多数の事業所があり、その中から生徒が自分の興味関心や、事業所によって指定された日時に合わせて、2つの事業所を選ぶことができる。事前に商工会の主催により校外でビジネスマナー研修会が行われ、他校の参加者と一緒にインターンシップでの心構えやその準備について講話を聴く等の指導を受ける。教員による事業所訪問はない。

表3. 1年次と2年次インターンシップの比較

対象生徒	本校1年次生全員	西村山地区内4高校の2年生
主催	左沢高校	寒河江市商工会
期間	9月中旬 3日間	夏季休業中 2～6日間程度
事業所の場所と数	西村山地区1市4町および東村山郡2町内の20～30の事業所から1つ	寒河江市内の事業所40～50から2つまで
目的等	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業の理解を深めるとともに、望ましい職業観・勤労観を育てる。 挨拶、言葉遣い、礼儀作法等を学ぶとともに、進路選択の意識付けとする。 	職業に関する知識と自覚の向上をめざす。企業が求める高い就業意識や自分で考え行動する人材の育成、さらには、地域産業の発展を担う人材の育成と就業の促進を図る。
指導過程	事前	ガイダンス、企業で活躍している人の講話、企業調べ、身の回りで働いている人への職業インタビュー、企業に直接出向いての打ち合わせ
	事後	日誌の記入、礼状作成、スライドを作成して発表会
		ビジネスマナー研修会（主催者） 電話による打ち合わせ（学校で本人が行う）
		アンケート（主催者）

(2) 探究活動

「総合的な探究の時間」において、地域の課題解決に取り組んでいる。地域をより良くしていくために、自らが今できることを考え、地域の人々と共に解決に向けて行動していくというのが基本理念である。チームにおけるコミュニケーションスキルや大人と話す力、社会参加の意識等の向上をねらいとしている。

2年次に地域の方々と共に問題解決に取り組み、3年次にはこれまでの学びをそれぞれの進路活動に生かしていく。本校の所在地である大江町と隣接する寒河江市、朝日町、西川町における生徒自身が問題だと感じることについて、周囲の大人（町役場、地域おこし協力隊、関係企業、NPO）を巻き込みながら活動を進めている。

2年次の探究活動は、生徒4～5名からなる班に、教員1名が1人ずつ付く形で行う。生徒が主体で活動し、教員は助言役である。大きな特徴として、地域の大人との係わりが多いという点があげられる。全体の過程は、①問題発見、②課題設定、③解決策立案、④アクションプランの計画、⑤アクションプラン報告会、⑥アクションの実行、⑦効果測定、⑧まとめ、⑨発表会、という探究活動の基本形をとっているが、これらのほとんどの過程で地域の方々に関わっていただいている。電話での面会予約の取付け、役場や会社訪問でのインタビュー、アクションの打ち合わせ等、様々な場面で、地域の方々、つまり学校の教員や保護者以外の大人と関わることになる。12月には全校生徒や地域の方に対して、2月にはキャンパス制の寒河江工業高等学校の生徒に対して1年間の活動の成果を発表する。

表4. 令和7年度 2年次探究活動テーマ

班「チーム名」	活動	地域
1班「Team Trash Interaction」	ゴミ問題と交流の場の減少を資源のリサイクルの仕組みで解決を図る	寒河江市
2班「大江町をフードで笑顔に」	道の駅の食品をプロデュースして、地域経済の活性化を図る	大江町
3班「BON DANCE」	大谷地区の盆踊りを盛り上げて、地域行事の活性化を図る	朝日町
4班「りんごスター☆」	魅力MAPを作成し、観光の活性化を図る	朝日町
5班「L MOKH (エルモック)」	絵本の作成・読み聞かせをして、地域の子どもの育てる力の向上を図る	大江町
6班「耕作放棄地減らし隊」	農業の魅力を経験しながら発信し、大江町の農業従事者の増加を図る	大江町

5 成果と課題

(1) 教科、科目について

地域の特色について体験的に学ぶ授業を多数設定している。「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間生活」をはじめとして、「課題研究」、「地域史基礎」、「地域史探究」、「メディアデザイン」、「地域の自然」等において、地域の方々にご協力をいただきながら、生徒たちは地域の中で学びを進めている。これらの体験的な学習活動は、卒業後も西村山地域を拠点に生活する生徒たちにとって、この地域で生活するということについて改めて考えるきっかけとなっている。

課題として、生徒の履修した科目選択と生徒の進路先が必ずしも一致していないことがあげられる。本校において農業や商業について学び、卒業後にその知識や技術を発揮するために、カリキュラムの研究を進めると同時に、進路先についてさらなる検討が必要となる。

(2) インターンシップについて

1年次のインターンシップは「働くとはどういうことか」を学ぶための一つ的手段として上手く機能していると思われる。生徒の日記や事後発表では、あいさつ、職場でのコミュニケーション、働くことの大変さ等を学ぶことができた、という感想が多い。また、事業所にもアンケートを書いてもらっているが、その内容も、「しっかりあいさつをしてくれる」、「元気に仕事をしてくれる」等、前向きな評価をいただいている。今後は生徒数の減少に伴い依頼する事業所数も少なくなり、これまでのロータリークラブや商工会を通して呼び掛けてもらい多くの事業所を募るやり方を見直して行く流れになるかもしれない。

2年次のインターンシップは業種を選ぶことができるため、事後アンケートでは自分が興味を持っている仕事を実際にどのようなことをしているのか体験して知ることができた、という回答が多い。また、体験してみても是非この仕事をしてみたいと思う者がいる一方で、あまり向いていなかったと感じる者もおり、他の業種に目を向けて自分に合う職業を探そうとするきっかけにもなっていると思われる。

(3) 探究活動について

今年度2年次生を対象とした授業アンケートから、授業における活動への積極性や自身のコミュニケーションスキルの向上等の項目で5段階のうち「当てはまる」と「やや当てはまる」が多く、授業を通しての自己成長を実感しているようである。また、教員や保護者以外の大人と関わる機会が多くあることで、受験の際の面接でも臆せず話せるようになることを期待できる。また、地域に対する愛

着や地域のためにできることがあるという思いを持った生徒も多く、卒業後の地域への貢献という視点でも生徒のキャリア形成につながる活動であると言える。

一方で、活動費や教員数の面で活動に制約が生じることがあり、今後は外部との連携を強めることで、より効果的な活動となるように更なる検討が必要である。

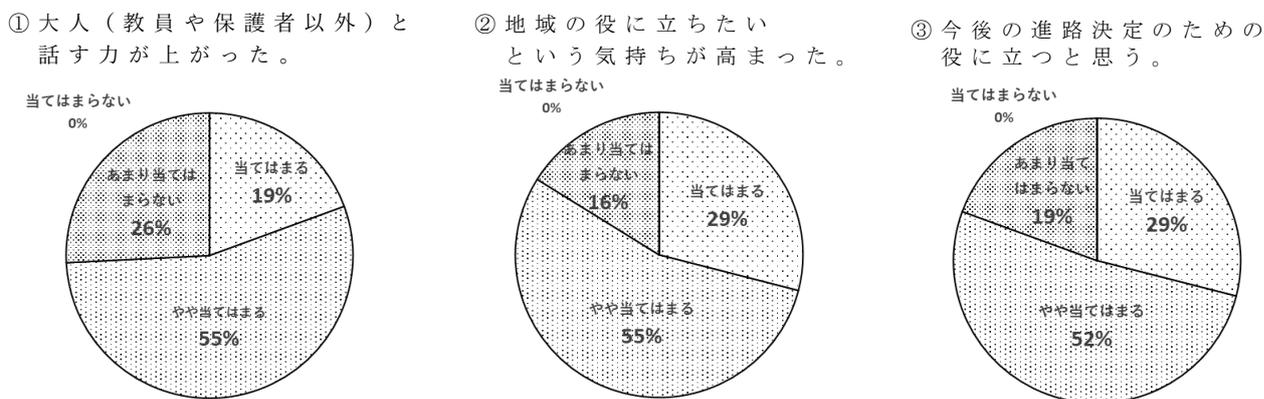


図 1 . 授業評価アンケート（抜粋）

（４）その他

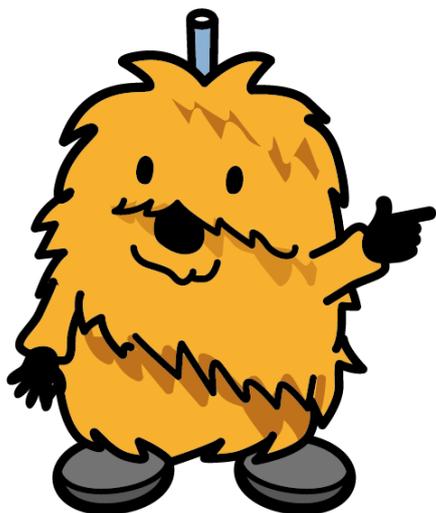
今年度、大江町と東北芸術工科大学と包括連携協定を締結した。芸術・美術分野に特化した履修モデルの構築、自治体推薦枠の設置、探究学習のブラッシュアップを行う。また、山形大学農学部や東北農林専門職大学との連携も行っている。これらの連携をもとに、芸術や地域、農業についての学習活動をより発展させていけるような教育活動を今後展開していく予定である。また、それらの連携校等に進学後、学びを深めて地域に戻るといったような多様な進路選択も可能となる。

7 おわりに

取り巻く環境の変化として、AIをはじめとする情報技術の急発達、コミュニケーションに課題をもつ子どもの増加、地域の歴史文化を継承する人材の減少等がある。その中で、本校が近年力を入れてきた、体験的な学習や協働性の高い学習、外部との連携による地域学習は、一層重要度が上がっている。今後も時代の変化に柔軟に対応しながら、学校が生徒や地域にとって、ウェルビーイング実現の場としての機能を担っていきたい。

第3分科会 「進路指導」について
発表2

宮城県伊具高等学校総合学科における
進路指導について
ー地域連携の推進をきっかけとした
ウェルビーイングの向上ー



宮城県伊具高等学校
主幹教諭 葛原 妙子 氏

第3分科会発表

宮城県伊具高等学校総合学科における進路指導について

ー地域連携の推進をきっかけとしたウェルビーイングの向上ー

宮城県伊具高等学校
主幹教諭 葛原 妙子

1 丸森町の概要

丸森町は宮城県の南端に位置し、南西は福島県と隣接している。町の北部を阿武隈川が貫流し、その流域と支流河川（内川・雉子尾川）の流域一帯が平坦地を形成しているものの、南東部は標高500m、北西部は標高300m前後の阿武隈山地の支脈で囲まれた盆地状の町である。



丸森町の人口は令和7年8月現在約1万1千人で、この20年間で約5千8百人減少している。高齢化率は44.7%（令和6年度）となり、宮城県内で1位となった。産業別の就業者に関しては、製造業33.2%、卸売業・小売業18.4%、建設業15.9%の順となっている（従業者数（事業所単位）2021年経済センサス活動調査より）。

2 本校の概要

（1）沿革

本校は大正9年に宮城県伊具農蚕学校として創立した。昭和22年に宮城県伊具農蚕高等学校と改称、昭和38年に宮城県伊具高等学校と校名を変更した。この校名変更とともに、従来の農蚕科が農業科、普通科が商業科、農村家庭科が生活科へと学科変更された。平成4年には農学科、生活科をそれぞれ産業技術科、生活技術科に学科改編を行い、さらに時代の流れや地域のニーズに応えるべく、平成11年に総合学科を設置し現在に至っている。これまで約1万4千人の卒業生を送り出し、令和2年に創立100周年を迎え、次の100年を見据えて地域とともに歴史を刻んでいる。

（2）生徒数

生徒数の変遷は表1のとおりで、20年前と比べると半減している。また、表2のとおり、本校に通学してくる生徒は主に丸森町と隣接する角田市からであり、それ以外の地域からの生徒はここ数年5%前後である。

<表 1> 20年前からの5年ごとの生徒数の変化

年度	生徒数
H22	359
H27	306
R2	199
R7	154

<表 2> 令和7年度出身中学校別生徒数

出身	年次	1年次		2年次		3年次		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
市町村	中学校								
丸森町	丸森	16	8	10	10	9	5	35	23
角田市	角田	10	14	11	9	19	7	40	30
	北角田	6	4	0	2	3	3	9	9
その他		0	4	1	1	1	1	2	6
合計		32	30	22	22	32	16	86	68
		62		44		48		154	

(3) 系列

本校には農学・機械・情報・福祉の4系列がある。合格者に対する予備登校を2日間行い、1日目には希望する2つの系列の授業見学をしてもらい、自分自身の興味や関心、将来の進路希望に適した系列を決定し、2日目に系列の希望用紙を提出させている。そうすることで、1年次から系列に分かれて授業を展開することが可能となり、3年間でより深い知識・技術を習得できる。

系列ごとの人数は表3のとおりである。

本校の始まりは農蚕学校であったが、近年の農学系列の選択者は非常に少ない。一方で約半数の生徒が機械系列を選択する。機械系列に生徒が集まる理由は、以前より丸森・角田地域は製造業が盛んであることや毎年多くの生徒が機械系列から製造業に就職していること、そして本校機械系列の中学校へのPRの成果であると考えられる。

各系列の特長は表4のとおりである。各系列の3年間の学びを生かして就職・進学先を選択するに超したことはないが、必ずしもそうなっているとも限らないのが現状である。

<表 3> 系列ごとの人数

	1年次	2年次	3年次	合計
農学	9	4	4	17
機械	28	20	27	75
情報	15	4	8	27
福祉	10	16	9	35
	62	44	48	154

<表 4> 各系列の特長

系列	特長
<p>農学 (農業)</p>	<p>地域性を活かした農業生産やその活用と、食品製造に関する知識と技術を身につけて、自営者の育成・関連企業への就職や農業関係大学・専門学校への進学を目指す。 【資格】 毒物劇物取扱者、危険物取扱者 小型車両系建設機械運転特別教育 フォークリフト(1t未満)運転特別教育 他</p>
<p>機械 (工業)</p>	<p>旋盤、溶接などの基礎・基本的な技術の習得、電気、制御、プログラミングなどのメカトロニクスについて学ぶ。また、5S・品質管理の学習・地域企業との連携事業を通して、職業人としての基礎的な力を身につけ、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。 【資格】 技能検定機械検査、技能検定機械保全、 ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育 産業用ロボット特別教育、半導体基礎研修 他</p>
<p>福祉 (福祉 ・家庭)</p>	<p>高齢化社会に対応する、心身共に健康で豊かな生活を支えるための知識と技術・態度を身につける。また、福祉実習を通して総合的・実践的な能力を高め、福祉・家庭に関する分野への就職や進学を目指す。 【資格】 食物調理技術検定、保育技術検定 被服製作技術検定、介護職員初任者研修 他</p>
<p>情報 (商業)</p>	<p>急速に変化する現代社会に対応するために、ビジネスに対応する知識・技術を身につけ、課題や疑問を解決する力、ビジネスに従事するための資質・能力を養う。将来は、就職のほか、情報経済関係大学・専門学校への進学を目指す。 【資格】 情報処理検定、ビジネス文書基礎検定 簿記実務検定、ビジネス計算実務検定 他</p>

3 伊具高校の目指すところ

<教育目標>

宮城県教育基本方針に基づき、総合学科の特色ある多様な教科・科目の選択履修を通じた教育によって、地域社会の将来を託すにふさわしい、「生きる知恵」にあふれた人材の育成を目指す。

- (1) 自主・・・自ら積極的に物事や学習に取り組む人間
- (2) 自律・・・自律的に社会生活をおくる人間
- (3) 責任・・・前向きで責任ある行動がとれる人間

<重点目標>

生徒一人一人の学校生活を充実させ、希望進路を100%達成するために

- (1) 基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を身に付けさせる。
- (2) 基礎学力の定着を図り希望進路達成できる学力を身に付けさせる。
- (3) キャリア教育を組織的に推進し勤労観・職業観を身に付けさせる。
- (4) 学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。
- (5) 安心して学校生活を送れるように安全教育を推進する。

4 進路指導について

(1) 令和6年度卒業生進路実績(令和7年3月31日現在)

進路希望

性別	生徒数	進学希望者	就職希望者	その他
男	29	2	27	0
女	15	1	14	0
計	44	3	41	0

進学就職状況 内訳

	進学者					
	大学	短大	専門学校	受験中	未定	計
男	0	0	2	0	0	2
女	0	1	0	0	0	1
計	0	1	2	0	0	3

	就職者						
	民間	公務員	縁故・自営	就職活動中	臨時的仕事	未定	計
男	26	0	1	0	0	0	27
女	14	0	0	0	0	0	14
計	40	0	1	0	0	0	41

就職者 地域別内訳

地域 性別	県内										
	丸森	角田	柴田	大河原	白石 刈田	村田 川崎	名取 岩沼	仙台	亶理 山元	仙台 以北	計
男	1	9	3	0	1	0	2	4	0	2	22
女	0	6	2	0	1	1	1	1	0	0	12
計	1	15	5	0	2	1	3	5	0	2	34

地域 性別	県外				合計	
	東京	福島	他県	計	男	女
男	0	3	2	5	男	27
女	0	2	0	2	女	14
計	0	5	2	7	計	41

就職者 職種別内訳

職種 性別	専門 ・技術	事務	販売	サービス	保安	農林 漁業	生産 工程	輸送 ・機械 運転	建設・ 採掘	運搬 ・清掃 ・梱包	公務員	合計
男	4	0	2	2	0	0	18	0	0	1	0	27
女	0	1	0	2	0	0	9	0	0	2	0	14
計	4	1	2	4	0	0	27	0	0	3	0	41

(2) 進路企画部によるキャリアプラン

1年次では、「産業社会と人間」の時間に系列体験学習・科目選択ガイダンス・企業見学を行い、自分の進路を見据え、この授業の集大成としてライフプラン集をまとめ、年度末に発表会を行うというものである。これらの学習によって進路意識を確立させることを目指している。

2年次では、9月上旬に全員が3日間のインターシップを行うこととし、内容の充実した実習になるよう、事前事後の指導も実施している。また、希望者は2～3月にも行うことができ、勤労観・職業観の醸成と進路選択に大いに活用できるような体制を取っている。最大限の調整をして各自の希望する事業所でのインターンシップを実施し、特に希望進路先が明確である場合については、積極的に希望する事業所でのインターンシップを展開し、進路希望の実現へと近づけている。この数年は、約半数以上の生徒が2回目のインターンシップを行った。また、12月には進路活動に向けた三者面談を実施し、次年度開始時から進路活動ができるよう、進路企画部と学年が連携して進められるように工夫をしている。



3年次では、4月～8月までに「就職・進学対策講座」を企画し、7月には就職斡旋・進学推薦等のルールを徹底するため「生徒・保護者進路説明会」を実施している。また、進路選択のミスマッチを防ぐ観点から、7月の求人公開前には、全職員で企業への職場訪問を実施し、卒業生の定着状況や採用状況について情報交換を行っており、生徒や保護者と情報共有し、承諾を得た上で推薦を行う。



他にも6月と8月に、3年次全員が参加する「模擬面接」を放課後に実

施し、全職員で面接指導を行っている。4～5人のグループに分かれ、生徒1人につき2回ずつの面接練習をしている。

さらに、卒業後の生活をサポートする「フォローアップセミナー」の実施により、生徒の進路活動を支えている。昨年度は、消費者セミナー、スーツ着こなしセミナー、金融教育、ライフプランニング授業等を実施した。

上記以外にも、それぞれの年次を対象に、生徒の希望進路に合わせたガイダンスを実施したり、外部講師を招いて講演を行ったりしている。



(3) 地域連携事業

キャリアプランに基づいた進路指導の一方で、社会で活躍できる人材の育成を目指し地域連携事業も積極的に行われている。地域の人々と協力しながら、地域のことをより深く知り、様々な経験を積み重ねる機会を作っている。その活動の中でコミュニケーション能力や地域の課題に向き合う姿勢、郷土愛を身につけ、その学びを地域支援という形で還元することにより生徒が自己有用感を実感し進路意識の向上につなげている。各系列の地域連携事業は次のとおりである。

① 農学系列

- ・ 舘矢間小学校、角田支援学校との児童・生徒との花壇植栽
- ・ 丸森小学校児童との稲刈り
- ・ 丸森大張棚田(日本棚田百選)の保存活動



② 機械系列

- ・ 丸森町のふるさと納税の返礼品製作(消毒液スタンド、組立式七輪)
- ・ 鳥獣用捕獲檻の製作・設置
- ・ 角田市、柴田町へのごみ集積所寄贈
- ・ ドローンプログラミング出前授業(丸森町、角田市、岩沼市の各小中学校)
- ・ 角田市の「はやぶさまつり」でのドローンプログラミング体験



③情報系列

- ・丸森の夏のお祭りである「齋理幻夜」でのナレーター、幻夜新聞発行
- ・地域の飲食店と連携した商品開発、お祭りでの販売
- ・丸森町のPR動画作成
- ・あぶくまの里山を守る会と協力した放置竹林整備事業



④福祉系列

- ・舘矢間小学校で紙芝居の読み聞かせ、防災テントと段ボールベッドの説明を通じた防災学習
- ・ミネ幼稚園との交流会
- ・地域住民と一緒に避難場所を確認する防災さんぽ



⑤4系列合同地域連携活動

今年度は、系列横断的な活動として、それぞれの系列の活動の成果で1つの活動を作り上げ、地域貢献に生かすという取組みを始めた。

丸森町で公園管理事業などを展開している株式会社伊具緑化と連携し、不動尊公園キャンプ場にて開催されている丸森ハレノバ市というイベントに参加した。6月には、ボランティアとして、出店の販売補助の仕事等を手伝った。10月には、下記のような形で2回目の参加を予定している。



- ・農学系列で生産した米・野菜の販売
- ・機械系列で製作したバーベキューコンロの実演・販売
- ・情報系列が放置竹林の竹から生産した消臭用竹炭の販売
- ・福祉系列のザンビアの布を使ったガーランド（ひも状の壁面等の装飾）の提供

5 本校における課題とその対応

本校には近年、中学校で特別な支援を受けていた生徒や、不登校であったために基礎学力が著しく低い生徒などが一定数入学してくるようになった。そのような生徒に対しても、生徒それぞれの能力を見極め、最適な進路を提示し、考えていく事が必要である。

本校では通級指導を行っている。昨年度までは「授業に加える」かたち

で放課後に実施していたが、さらに今年度から、「授業に替える」かたちでの通級指導も行っている。通級指導は基本的なコミュニケーション能力の修得や、生活上の困難を克服し、社会に出るにあたって必要なスキルを身につけ、進路選択の幅を広げられるようすることを目的としている。通級指導の担当者は一般科目の教員であり教員不足が課題とはなっているが、「挨拶ができるようになった」「提出物がきちんと出せるようになった」など、通級指導による効果は確実に現れている。

療育手帳を取得し障害者雇用を目指す生徒は、2年次で全員が行うインターンシップに加えて、3年次で2週間程度の現場実習を行い、企業側に生徒の能力や主体性を見極めてもらった上で慎重に進路先を決定するようにしている。

また、複数の就労移行支援施設への見学を経て、通所先を決めた事例もある。このような場合、教員が就労移行支援施設へ接続するための事務的手続きについての知識が乏しいことが課題であるため、先行事例をもとに、自治体とも連携しながら対応の仕方を確立させていくことが重要である。

6 まとめ

本校では、以前より進路指導部が構築してきた計画に基づき、組織的で手厚い進路指導を行い、地域で即戦力として活躍できるような人材を育ててきた。しかし、少子化に伴う生徒数の減少が著しく、教員数が減り、さらに生徒の質も変わってきたことにより、進路指導の方法も徐々に変化してきた。

今後、生徒数・教員数の減少から免れないのは明白の事実ではあるが、地元地域との連携を強め様々な活動を継続し、その学びのなかで生徒の自己有用感・達成感を持たせたい。そして地域の多大なる期待に応えるべく、本校卒業生が地元地域社会を生活基盤とし、ウェルビーイングを向上させていくことを目標に進路指導を続けていきたいと考えている。

参考資料

- ・丸森町ホームページ、町の概要
(<https://www.town.marumori.miyagi.jp/>)
- ・しるくわホームページ、養蚕
(<https://silkwa.jp/yousan/>)
- ・RESAS 地域経済分析システム、産業構造
(<https://resas.go.jp/>)



◇演題

「創意工夫」地域に愛される銘店へ

～レストラン HACHI の目指してきたコト、目指すコト～

講師 角田 秀晴 (かくたひではる) 氏

レストラン HACHI (株) オールスパイス代表取締役会長

◇講師略歴



角田 秀晴 (かくたひではる) 氏

レストラン HACHI (株) オールスパイス代表取締役会長

■プロフィール

1963年仙台市生まれ。

仙台向山高校卒

東北学院大学中退

両親が開業した洋食レストランを高校時代から手伝い、東北学院大学文学部中退後、家業に従事。

30代は結婚相談所でのサラリーマン生活も経験し40代にUターン、2007年より現職。

レストラン HACHI は1979年創業。経営のポリシーは「あたりまえのコトをまじめにコツコツ…」。宮城県内に6店舗を構えナポリタン・ハンバーグなどが人気。オンラインショップも展開の他、近年はユニクロやロフトなどが地元ブランドとしてコラボ商品を販売している。経営理念の「私たちは幸せを創るもう一つの家族」が HACHI の独特の社風を作り上げてきた。迷走した20代～30代の自身の反省と、中途採用・転職が基本の飲食業での採用、育成の経験からキャリアコーチングを学び、ライフワークとしている。

自身のキャリアも2025年より会長に就任し次世代の後継者育成に取り組んでいる。

趣味は呑み鉄、落語鑑賞。

特技はキャリアカウコーチング。

参加者名簿（敬称略）



第21回 東北地区高等学校総合学科教育研究大会(宮城大会) 参加者名簿

no. 個人	no. 団体	高校名・所属先名	参加者名	役職名	役員・役割	分科会	情報交換会
1	1	東京都立晴海総合学科高等学校	佐藤 信孝	校長	理事長		○
2	2	岩手県教育委員会	前川 啓太郎	指導主事	第1分科会指導助言	第1分科会	×
3	3	福島県教育庁 高校教育課	鈴木 博之	指導主事	第2分科会指導助言	第2分科会	○
4	4	山形県教育委員会	叶内 有希絵	指導主事	第3分科会指導助言	第3分科会	×
5	5	宮城県教育庁高校教育課	菊田 英孝	課長			×
6	6	宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班	村上 泰己	課長補佐(指導主事)	報告会講評		×
7		宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班	三部 佐貴子	主査(指導主事)			×
8	7	学校法人スコール 盛岡スコール高等学校	伊藤 寛泰	教頭		第1分科会	○
9		学校法人スコール 盛岡スコール高等学校	藤澤 基規	教諭		第2分科会	○
10	8	岩手県立一関第二高等学校	佐藤 禎信	校長		第1分科会	○
11		岩手県立一関第二高等学校	阿部 也寸志	教諭		第2分科会	○
12		岩手県立一関第二高等学校	洞口 拓朗	教諭		第2分科会	○
13	9	岩手県立岩谷堂高等学校	助川 剛栄	校長	地区理事	第2分科会	○
14		岩手県立岩谷堂高等学校	樋沢 豊	教諭		第1分科会	×
15		岩手県立岩谷堂高等学校	門傳 岳	教諭	岩手県事務局長	第2分科会	○
16	10	岩手県立久慈翔北高等学校	藤原 拓磨	教諭		第3分科会	○
17		岩手県立久慈翔北高等学校門前校舎	久慈 裕一	教諭		第2分科会	○
18		岩手県立久慈翔北高等学校門前校舎	石村 法隆	教諭		第1分科会	×
19	11	岩手県立紫波総合高等学校	近江 隆久	教諭	第1分科会発表	第1分科会	○
20	12	岩手県立北桜高等学校	柴田 護	副校長		第1分科会	×
21		岩手県立北桜高等学校	谷藤 英美	教諭		第2分科会	×
22		岩手県立北桜高等学校	田邊 一徳	教諭		第2分科会	○
23	13	岩手県立北上翔南高等学校	千葉 勝幸	校長		第1分科会	×
24		岩手県立北上翔南高等学校	菅 康裕	教諭		第2分科会	×
25		岩手県立北上翔南高等学校	中村 香清	教諭		第3分科会	×
26		岩手県立北上翔南高等学校	千葉 絵理	教諭		第1分科会	×
27	14	山形県立荒砥高等学校	石田 充	校長		第3分科会	×
28		山形県立荒砥高等学校	佐藤 暁子	主幹教諭		第2分科会	○
29	15	山形県立高島高等学校	長岡 靖之	校長		第3分科会	×
30		山形県立高島高等学校	藤井 陵治	教諭		第2分科会	×
31	16	山形県立左沢高等学校	廣谷 久美子	校長		第1分科会	×
32		山形県立左沢高等学校	中里 岳	教諭	第3分科会発表	第3分科会	×
33	17	山形県立庄内総合高等学校	佐藤 りか	校長	地区理事	第1分科会	○
34		山形県立庄内総合高等学校	阿蘇 寛隆	教諭	山形県事務局長	第2分科会	○
35	18	山形県立鶴岡中央高等学校	田村 裕	校長		第1分科会	○
36		山形県立鶴岡中央高等学校	澤田 裕子	教諭		第2分科会	○
37	19	山形県立北村山高等学校	菅原 吉利	校長		第3分科会	×
38	20	秋田県立西目高等学校	関谷 洋之	校長	監事	第1分科会	○
39		秋田県立西目高等学校	佐々木 充宏	教諭	秋田県事務局長	第2分科会	○
40		秋田県立西目高等学校	佐藤 朋紀	教諭		第3分科会	○
41	21	秋田県立増田高等学校	藤谷 聡	教諭	全体会発表	第1分科会	×
42	22	青森県立七戸高等学校	工藤 佑華	教諭		第2分科会	×
43		青森県立七戸高等学校	成田 正次	教諭		第3分科会	×
44		青森県立七戸高等学校	中野渡 和隆	教諭		第1分科会	×
45	23	青森県立青森中央高等学校	川野 優子	校長	会長		○
46		青森県立青森中央高等学校	坂本 浩一	教頭		第1分科会	○
47		青森県立青森中央高等学校	笠井 敦司	教諭	青森県事務局長	第1分科会	○

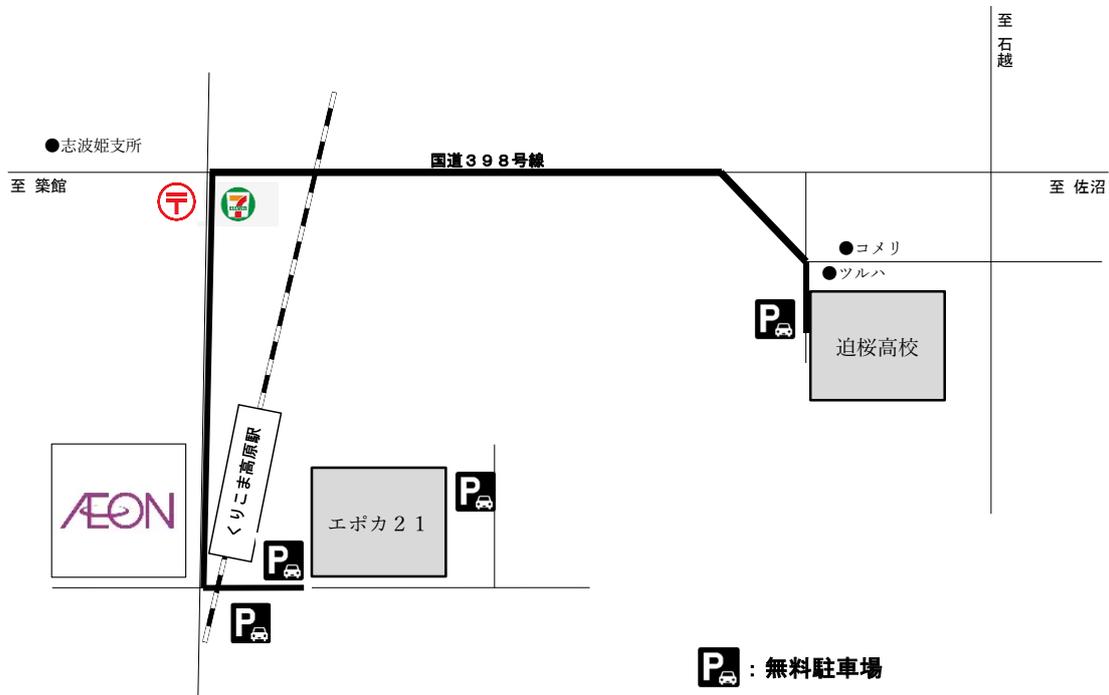
第21回 東北地区高等学校総合学科教育研究大会(宮城大会) 参加者名簿

no. 個人	no. 団体	高校名・所属先名	参加者名	役職名	役員・役割	分科会	情報交換会
48	24	青森県立大湊高等学校	伊藤 文一	校長		第1分科会	○
49		青森県立大湊高等学校	小原 舞子	教諭		第2分科会	×
50		青森県立大湊高等学校	新山 裕大	教諭		第3分科会	×
51	25	青森県立尾上総合高等学校	根城 寿彦	教頭		第3分科会	○
52		青森県立尾上総合高等学校	杉沼 裕三	教諭	全体会発表	第2分科会	○
53	26	青森県立木造高等学校	加賀谷 貴史	教諭		第3分科会	×
54		青森県立木造高等学校	中田 洋平	教諭		第2分科会	×
55		青森県立木造高等学校	佐々木 俊雅	臨時講師		第1分科会	×
56	27	福島県立いわき総合高等学校	太田 隆明	校長	監事	第2分科会	○
57		福島県立いわき総合高等学校	加藤 良一	教頭		第1分科会	×
58		福島県立いわき総合高等学校	大平 洋一	教諭		第3分科会	×
59		福島県立いわき総合高等学校	細谷 千恵	教諭	福島県事務局長	第2分科会	×
60		福島県立いわき総合高等学校	佐竹 なおみ	教諭		第1分科会	×
61	28	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	瀧本 基	副校長		第1分科会	○
62		福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	林 裕文	教諭		第2分科会	○
63	29	福島県立会津学鳳高等学校	齋藤 賢一郎	副校長		第1分科会	×
64		福島県立会津学鳳高等学校	堀井 敦子	教諭		第1分科会	×
65	30	福島県立光南高等学校	豊田 則夫	教頭		第2分科会	×
66		福島県立光南高等学校	佐藤 佳代子	教諭		第2分科会	×
67	31	福島県立相馬総合高等学校	相澤 充	教頭		第1分科会	×
68		福島県立相馬総合高等学校	渡邊 民江	教諭		第3分科会	×
69		福島県立相馬総合高等学校	磯前 翔斗	教諭		第2分科会	×
70	32	福島県立南会津高等学校	吉田 大祐	教頭		第1分科会	×
71		福島県立南会津高等学校	高橋 悠	教諭		第2分科会	×
72	33	福島県立福島北高等学校	箭内 奨	教諭	第2分科会発表	第2分科会	×
73		福島県立福島北高等学校	柴山 奈津美	教諭		第3分科会	×
74	34	宮城県伊具高等学校	佐藤 真	校長		第3分科会	×
75		宮城県伊具高等学校	庄司 健太郎	教頭	第3分科会進行	第3分科会	○
76		宮城県伊具高等学校	葛原 妙子	主幹教諭	第3分科会発表	第3分科会	×
77		宮城県伊具高等学校	鈴木 悦子	教諭	第3分科会記録	第3分科会	×
78	35	宮城県小牛田農林高等学校	長内 志郎	校長		第1分科会	○
79		宮城県小牛田農林高等学校	佐藤 充伸	教頭	情報交換会進行		○
80		宮城県小牛田農林高等学校	酒井 麻千子	教諭		第2分科会	○
81		宮城県小牛田農林高等学校	小野澤 哲也	教諭		第3分科会	×
82	36	宮城県石巻北高等学校	小野寺 基好	校長		第1分科会	○
83		宮城県石巻北高等学校	佐々木 幸太	教頭	第1分科会進行	第1分科会	○
84		宮城県石巻北高等学校	吉田 涼太	教諭		第1分科会	×
85		宮城県石巻北高等学校	熱海 美穂	教諭	第1分科会記録	第1分科会	○
86		宮城県石巻北高等学校	佐藤 恵	教諭		第1分科会	×
87		宮城県石巻北高等学校	工藤 康	教諭		第1分科会	○
88		宮城県石巻北高等学校	村上 拓也	教諭	第1分科会発表	第1分科会	○
89	37	宮城県村田高等学校	安斎 喜和	校長		第2分科会	○
90		宮城県村田高等学校	本郷 直哉	教頭	第2分科会進行	第2分科会	×
91		宮城県村田高等学校	青木 重幸	主幹教諭	第2分科会記録	第2分科会	×
92		宮城県村田高等学校	大石 真人	教諭	第2分科会発表	第2分科会	×
93		宮城県村田高等学校	大内 清佳	教諭		第2分科会	×
94	38	宮城県本吉響高等学校	阿部 一彦	校長		第1分科会	○
95		宮城県本吉響高等学校	熱海 健二	主幹教諭		第3分科会	×
96		宮城県本吉響高等学校	川井 毅	教諭		第1分科会	×

第21回 東北地区高等学校総合学科教育研究大会(宮城大会) 参加者名簿

no. 個人	no. 団体	高校名・所属先名	参加者名	役職名	役員・役割	分科会	情報交換会
97	39	宮城県迫桜高等学校	大竹 博行	校長	副会長	第2分科会	○
98		宮城県迫桜高等学校	千葉 貢	教頭	全体進行		○
101		宮城県迫桜高等学校	卯野 友美	教諭		第2分科会	○
102		宮城県迫桜高等学校	佐々木 健太	教諭	全体会記録	第2分科会	○
103		宮城県迫桜高等学校	山口 寛一	実習助手	分科会報告記録	第2分科会	○
104		宮城県迫桜高等学校	鎌田 浩	常勤講師		第1分科会	○
105		宮城県迫桜高等学校	杉田 和宏	教諭		第2分科会	×
106		宮城県迫桜高等学校	千葉 亮	教諭		第2分科会	×
107		宮城県迫桜高等学校	中嶋 淳彦	教諭		第3分科会	×
108		宮城県迫桜高等学校	白幡 秀人	教諭		第1分科会	×
109		宮城県迫桜高等学校	木川 直人	教諭		第1分科会	×
110		宮城県迫桜高等学校	藤原 真紀	教諭		第3分科会	×
111		宮城県迫桜高等学校	佐藤 智行	教諭		第1分科会	×
112		宮城県迫桜高等学校	後藤 大	教諭		第1分科会	×
113		宮城県迫桜高等学校	遠藤 嘉代子	教諭		第3分科会	×
114		宮城県迫桜高等学校	遊佐 美智子	教諭		第2分科会	×
115		宮城県迫桜高等学校	佐々木 成視	教諭		第3分科会	×
116		宮城県迫桜高等学校	小川 初美	教諭		第3分科会	×
117		宮城県迫桜高等学校	大島 香織	教諭		第3分科会	×
118		宮城県迫桜高等学校	佐藤 好恵	教諭		第2分科会	×
119		宮城県迫桜高等学校	井澤 留莉	教諭		第2分科会	×
120		宮城県迫桜高等学校	四釜 千尋	教諭		第2分科会	×
121		宮城県迫桜高等学校	織田 智加來	教諭		第3分科会	×
122		宮城県迫桜高等学校	菅原 靖史	教諭		第3分科会	×
123		宮城県迫桜高等学校	本田 直崇	教諭		第3分科会	×
124		宮城県迫桜高等学校	吉田 圭佑	教諭		第3分科会	×
125		宮城県迫桜高等学校	佐々木 龍宏	教諭		第3分科会	×
126		宮城県迫桜高等学校	齋藤 昭典	教諭		第2分科会	×
127		宮城県迫桜高等学校	小野寺 将	教諭		第3分科会	×
128		宮城県迫桜高等学校	井澤 萌	教諭		第2分科会	×
129		宮城県迫桜高等学校	衣笠 彰真	教諭		第3分科会	×
130		宮城県迫桜高等学校	齋藤 寛	教諭		第2分科会	×
131		宮城県迫桜高等学校	佐藤 圭	教諭		第1分科会	×
132		宮城県迫桜高等学校	佐藤 健心	教諭		第2分科会	×
133		宮城県迫桜高等学校	和田 恵佑	教諭		第3分科会	×
134		宮城県迫桜高等学校	鈴木 忠延	教諭		第3分科会	×
135		宮城県迫桜高等学校	佐竹 真	教諭		第2分科会	×
136		宮城県迫桜高等学校	小松 伸正	実習教諭		第2分科会	×
137		宮城県迫桜高等学校	伊東 洋史	実習講師		第3分科会	×
138		宮城県迫桜高等学校	佐藤 充	実習講師		第1分科会	×
139		宮城県迫桜高等学校	熊谷 潔	常勤講師		第2分科会	×
140		宮城県迫桜高等学校	岩淵 郁恵	常勤講師		第3分科会	×

●本校からエポカ21までの経路図



●エポカ21周辺地図

